

高教研年報

第 64 号

令和 6 年度

新潟県高等学校教育研究会

令和5年度各部会事業報告

1 国 語・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2 地理歴史・公民・・・・・・・・・・・・・・・・	2
3 数 学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
4 理 科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
5 芸 術・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6
6 英 語・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	10
7 農 業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	11
8 工 業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	15
9 商 業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	22
10 水 産・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	24
11 家 庭 科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	27
12 保 健 体 育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	32
13 情 報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	33
14 生 徒 指 導・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	34
15 図 書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	35
16 視 聴 覚・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	36
17 定 通・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	37
〈研究会一覧〉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	36
令和6年度 理事会（書面審議）録・・・・・・・・	79
令和6年度 活動から・・・・・・・・・・・・・・・・	80
令和6年度 収入支出決算書・・・・・・・・	81
令和6年度 役員・・・・・・・・・・・・・・・・	83
（ 理事・会計監査委員・ 委員・部会幹事および部会会員数・事務局幹事 ）	
新潟県高等学校教育研究会規約・・・・・・・・	86
令和6年度事務局日誌抄・・・・・・・・	90
編集後記 幹事・・・・・・・・・・・・・・・・	91

巻頭言

令和6年度高教研年報の刊行によせて

新潟県高等学校教育研究会会長
(新潟県立新潟南高等学校長)

横堀 真弓

新潟県高等学校教育研究会（以下、高教研）は、新潟県の高等学校教育を振興発展させることを目的として昭和23年(1948年)に設立され、早くも設立80周年が視野に入るところとなりました。この長きにわたり、本県の後期中等教育に携わる教職員の研究・研修活動の一端を担っている当教育研究会ですが、今年度も、全17の部会（国語、地理歴史・公民、数学、理科、芸術、英語、農業、工業、商業、水産、家庭科、保健体育、情報、生徒指導、図書、視聴覚、定通）において、精力的に研究・研修活動が行われました。その成果が、この冊子に収められています。各部会の取組に改めて敬意を表しますとともに、この冊子に掲載されたそれぞれの取組を互いに波及させ合い、県全体としての教育の底力となってくれまことを期待します。

当教育研究会では、現在の高等学校学習指導要領で目指す「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性」の育成に向け、各部会において授業実践や事業実践を共有し、活発な意見交換を行い、各教科等の指導力向上を図っています。近年は「教科横断」「探究的な学び」といった新しいテーマ設定や、専門性を極める先端的な講義、また各教科等の指導に資する多角的な視野を獲得できる研修など、各部会の課題解決のために工夫をこらした、多様な取組が展開されています。開催方法も、対面の良さが生きる研修と、オンラインで広く共有できる良さと、それぞれを組み合わせた、効果的かつ参加しやすい形態に工夫されています。

当教育研究会の良さは、教員自らが必要とする研修を自らの手で計画・実践できる、つまり、各教科等のニーズに直結した研修ができることにあります。自らの手で生み出した研修に参加して、自らの力を高める。教員が自らの学びを主体的にマネジメントできる。これが当教育研究会の研修の強みです。新たな教員研修制度が始まって2年、自ら学び続ける教員を、当教育研究会はこれまで以上に支え、後押しする役目を担っています。各部会が、学び続ける教員の必要とする学びを実現する貴重な場であり続けられるよう、会長校としても各部会の事業運営を支えてまいります。

この冊子の事業報告には、新潟県の教職員が重要と捉え、自ら取り組んでいる教育課題が直に反映されています。各教科等がめざしている方向性もよくわかります。この1年で展開された研修を、この冊子では横断して読み取ることができます。この横断の切り口でぜひ、自校での取組を振り返り、お役立ただけければ幸いです。会員の皆様におかれましては、これからも引き続き、当教育研究会を活用し、研鑽を積んでいかれますことを心から願い、応援しますと同時に、共に学ぶ所存です。今後ともよろしくお願い申し上げます。

国語部会

1 運営委員会

第1回運営委員会は、7月25日（木）に白根高等学校において実施しました。内容は令和5年度の事業報告、決算報告、令和6年度の事業計画と全県研究協議会について審議しました。全県研究協議会は参集型として、具体的な実施方法を検討することにしました。12名の運営委員から審議していただき、審議内容が承認されました。

第2回運営委員会は、1月30日（木）に白根高等学校において実施しました。令和6年度の事業報告、決算報告、令和7年度の事業計画等について協議し、12名の運営委員から審議していただき、審議内容が承認されました。

2 全県研究協議会準備委員会

- (1) 日時 令和6年11月22日（金）10:00～12:00
- (2) 会場 県立生涯学習推進センター ホール等
- (3) 内容 全県研究協議会の準備について
- (4) 参加者 国語部会役員等11名

3 全県研究協議会

- (1) 日時 令和6年11月22日（金）13:00～16:30
- (2) 会場 県立生涯学習推進センター ホール等
- (3) 参加者 53名
- (4) テーマ「新学習指導要領を踏まえた授業づくり～主体的・対話的で深い学びの実践を目指して～」

(5) 実践発表

燕中等教育学校 阿部 友紀 教諭
「生徒の『対話的な学び』の実践を目指して～言語文化『土佐日記』における女性仮託をめぐって～」

(6) 指導講評

県立教育センター指導主事 今井 大輔 様

(7) 講演

講師：新潟大学人文学部教授 長沼 光彦 様
「小説と解釈の多様性について 太宰治『走れメロス』」

(8) 研究協議

阿部教諭の実践発表は、紀貫之が「女性仮託」を選択した理由を、生徒が他者との意見交換を通して、自身の考えを深めていくことを目指す取組でした。加えて、Google フォームに入力し、スクリーンに表示された集約意見（スプレッドシート）を使用することで生徒同士が意見をスムーズに共有できた様子が伺え、ICTを活用した実践としても参考になることが多く、参加者からもとても参考になった旨の意見が寄せられました。

指導主事の今井大輔様からは、指導講評を賜り、今後の国語教育の授業づくりに向けてご指南をいただきました。

また、新潟大学人文学部長沼光彦教授より、「小説と解釈の多様性について 太宰治『走れメロス』」と題して、新学習指導要領の趣旨を確認しつつ、小説教材における具体的な捉え方等をおとした思考力・判断力・表現力の育成のあり方について、非常に示唆に富んだご講演を頂戴しました。結果、教材に対する考察の重要性を再認識する貴重な機会を得ることができました。



当日は、参加者からも多数の感想や質問が途切れることなく寄せられ、まさに充実した研究協議会となりました。これからも会員皆様よりご意見をお寄せいただき、活動に活かしていきたいと考えます。

4 刊行物

「国語研究」第71集では、6名の方から寄稿がありました。感謝申し上げますとともに今後のご活躍をご祈念いたします。令和6年度の事業にご理解・ご協力をいただいた皆様に感謝申し上げます。

地理歴史・公民部会

1 総会

期 日 令和6年7月19日(金)
会 場 新潟高校視聴覚ホール
議 事 (1) 令和5年度事業報告
(2) 令和5年度決算報告
(3) 令和6年度事業計画
(4) 令和6年度予算計画

2 研究協議会

期 日 令和6年7月19日(金)
会 場 新潟高校視聴覚ホール
発 表 「中学校から見た高校新学習指導要領・大学入学共通テスト」
発表者 小田 和也 教諭
(佐渡市立佐和田中学校)
講 演 「大学から見た高校新学習指導要領・大学入学共通テスト」
講 師 中村 元 様 (新潟大学人文学部)
参加者 30名

研究協議会の目的は、高校地理歴史・公民科の新科目や大学入学共通テストが中学校や大学の立場からどのように捉えられているかを私たち高校教師が学びつつ、中学校や大学で社会科学教育、歴史教育に携わっている発表者・講師の先生方と対話することである。実践発表では、中学校新学習指導要領を受けて中学校でどのような実践がなされているかを学ぶことができ、学習観の転換が中高で軌を一にしていることがわかった。講演では、大学の歴史教育と高校歴史系新科目の関係や、大学入学共通テストの歴史系科目がどのような思考力を求めているのかについて考えることができた。研究協議会全体を通して、参加者は「小中高大」の相互理解と連携に努めたいという意欲を高めることができた。

3 地理歴史研究会

期 日 令和6年11月15日(金)
会 場 県立図書館ホール
当番校 長岡大手高校
テーマ 「総合」から「探究」へ—地理歴史科の取り組み—
発表者 長岡 大 教諭 (燕中等教育学校)
中村 崇志 教諭 (長岡大手高校)
参加者 24名

新課程が始まり3年目を迎え、大学入学共通テストでは初の「地理総合、地理探究」「歴史総合、世界史探究」「歴史総合、日本史探究」が実施される。しかし、必修科目の「地理総合」「歴史総合」に比べると、選択科目(探究科目)の「地理探究」「世界史探究」「日本史探究」は、授業実践や議論が充分ではない。「地理総合」から「地理探究」へ、「歴史総合」から「世界史探究」や「日本史探究」への接続とは、どのようなことなのか。また、大学入学共通テストの新科目実施に向けて授業ではどのような取り組みができるのか。地理と歴史それぞれについて取り組みを紹介し、あわせて参加者が資料を活用した作問をするワークショップを行った。

4 企画委員会

○第1回企画委員会 (1総会と同じ)
○第2回企画委員会
期 日 令和7年2月5日(水)
会 場 長岡大手高等学校
議 事 (1) 令和6年度事業報告
(2) 令和6年度決算報告
(3) 令和7年度事業計画

5 刊行物

『地理歴史・公民研究』第63集
(令和7年3月末日発行)

数 学 部 会

1 全県研究会

(1) 数学教育研究会

期 日 令和6年7月4日(木)

場 所 柏崎市文化会館アルフォーレ

研究テーマ

高等学校における数学教育の諸問題について

講 演

演 題 「漸近的統計推測に向けて～大数の法則と中心極限定理～」

講 師 新潟大学

理学部理学科数学プログラム
准教授 蛭川 潤一 様

研究発表

テーマ 「令和6年度新潟大学入試問題分析」

発表者 柏崎高等学校 教諭 丸山 和則

参加者 67名



〔柏崎高校 丸山教諭の発表〕

(2) 全県教育研究会

兼 北陸四県数学教育研究(新潟)大会

期 日 令和6年11月1日(金)

場 所 新潟市秋葉区文化会館 他

研究主題

個別最適な学びと、協働的な学びを保障し、
児童・生徒が数学的な見方・考え方を働か
せて、学びを深める算数・数学教育の実現

講 演

演 題 「その学び、大人はそれで学びが好きになりましたか?～子どもの目線に戻って日々の授業作りを問い直す～」

講 師 「授業・人」塾代表

元筑波大学附属小学校副校長
田中 博史 様

研究発表

テーマ (数学ⅠA分野)

発表者 津南中等教育学校 教諭 水谷 華

テーマ (数学ⅡBⅢC分野)

発表者 白根高等学校 教諭 長谷川 拓也

テーマ (大学入試分野)

発表者 柏崎高等学校 教諭 丸山 和則

参加者 77名



〔白根高校 長谷川教諭の発表〕



〔柏崎高校 丸山教諭の発表〕

2 会議

・数学部会代議員会

期 日 令和6年度7月4日(木)

場 所 柏崎市文化会館アルフォーレ

- 議 題 (1) 令和6年度数学部会役員
(2) 令和5年度事業・決算報告
(3) 令和6年度事業・予算案審議

出席者 67名

3 広報・研究成果の刊行

- (1) 令和6年度数学部会会員名簿の作成
(2) 「数学教育研究集録」第63号の刊行

理科部会

1 役員会

【1】第1回役員会

- 1 期 日 令和6年7月22日(月)
- 2 会 場 Web会議
- 3 参加者 19名
- 4 議 題 R5事業報告 決算報告
R6事業計画 予算案
役員改選 その他

【2】第2回役員会

- 1 期 日 令和7年2月3日(月)
- 2 会 場 Web会議
- 3 参加者 名
- 4 議 題 R6事業報告 決算報告
R7事業計画 予算案
その他

2 研究会

【1】物理教育研究会

- 1 期 日 令和6年11月13日(水)
- 2 会 場 新潟県立国際情報高等学校
- 3 参加者 16名
- 4 講 演
「圧電デバイス・超音波デバイスの
基礎と応用」
独立行政法人国立高等専門学校機構
長岡工業高等専門学校電子制御工学科
教授 梅田 幹雄 様
- 5 研究協議
「理科教材開発などについて」
 - ① 新潟県立新潟西高等学校 渋谷 浩一
 - ② 株式会社ナリカ
 - ③ ケニス株式会社
 - ④ 原子力発電環境整備機構※ 教材の展示と関連説明の後、意見交換
- 6 研究発表
 - ① オシロスコープアプリの音单元への活用について
県立五泉高等学校 桐生 翔平
 - ② Arduino を利用したインターフェースの開

発と活用

- ③ 再帰反射シートを用いた“空中ディスプレイ”の紹介
県立国際情報高等学校 小林 力
- ④ 授業中にできる簡単な演示実験4種(感電、跳ね返り、大型分光器、電磁ブレーキ)
県立十日町総合高等学校 高橋 利勝



物理教育研究会の様子

【2】化学教育研究会

- 1 期 日 令和6年10月28日(月)
- 2 会 場 長岡大手高等学校 済美会館
- 3 参加者 15名
- 4 研究発表・協議
「観点別評価と学ぶ力の育成について」
新潟市立万代高等学校 中川 有香
「リン酸(食品添加物)の中和滴定
～ICT 機器を用いた実験指導について～」
新潟第一高等学校 長谷川 裕也
- 5 講 演
「化学史から化学教育の疑問に答える
『日本版 Ask the Historiam』プロジェクト」
東京大学理学部化学科 分析化学研究室
助教 遠藤 瑞己 様

【3】生物教育研究会

- 1 期 日 令和6年11月19日(火)
- 2 会 場 北越高等学校 大会議室
- 3 参加者 27名

4 講演

『『つながる』ことで生物教育はより一層ワクワクしたものになる』

東京都立国分寺高等学校

講師 市石 博 様

5 研究発表・協議

「検証型の仮説設定の能力を養う深い学び」

新津高等学校 奈良 俊宏

6 視察報告「日本生物教育会第78回国大会東京大会」

村上特別支援学校 市川 克行

3 刊行物

「理科研究収録（第64号）」

※発行予定

【4】地学教育研究会

1 期 日 令和6年11月8日（金）

2 会 場 長岡大手高等学校 済美会館

3 参加者 9名

4 講演

「2024年能登半島地震の課題と今後の県内の地震防災」

新潟大学 災害・復興科学研究所

教授 卜部厚志 様

5 協議

「防災に関わる授業・実習の紹介・意見交換」



地学教育研究会の様子

芸術部会

1 総会・授業見学

・施設見学・研究協議会

期 日 : 令和6年6月28日(金)
会 場 : 高田城址公園オーレンプラザ

(1) 総会〈オーレンプラザ ホール〉
議 事

- 1 令和5年度事業報告
- 2 令和5年度決算報告
- 3 令和6年度役員案、会員数
- 4 令和6年度事業計画案
- 5 令和6年度予算案
- 6 令和7年度 総会は下越・新潟地区
- 7 その他

(2) 芸術科研究協議会・分科会

(3) 記念演奏会 箏奏者 高倉七虹 様



(4) 講演会 講師

京都市総合教育センター

元文部科学省初等中等教育視学官

東良雅人 様

2 各科研修会・研究協議

■音楽科研修会・研究協議

期 日 : 令和6年11月7日(木)

会 場 : 新潟市立鳥屋野中学校

内 容 : ①授業参観
②協議会(グループ協議)
③研修会
『音楽科の授業づくり』

講 師 : 高橋恒彦 氏

(新潟大学大学院教育実践学研究科特任教授)

参加者 : 7名



音楽科の研修会・研究協議は、新潟市中学校教育研究協議会音楽部研修会への合同参加の形式で実施した。昨年度の研修会でICTを活用した授業について話題となり、すでに実践が進んでいる中学校の現状を知りたいという多くの意見から今回の研修会が実現した。

会場校となった新潟市立鳥屋野中学校では、学校生活アンケートで「音楽の勉強が好きだ、よく理解できる」と回答する生徒が全体の90%にのぼるということであった。

今回の研修会は「感性を働かせて、仲間と共に音楽に関わり続ける生徒の育成」を研究主題とし、まず初めに同校音楽科の今井優太教諭による2学年の公開授業が行われた。授業の題材は「CMソングをつくろう」という創作活動で、生徒が取り組みやすいように音素材(キャッチコピー、音階、音域、リズムなど)をあらかじめ授業者が提示する工夫がされていた。また創作ツールとしてiPadの“Garage Band”が使用されており、生徒全員がアプリを使いこなして音や声を入力しながら主体的に

創作を行っていた。ペアで互いの作品を聴き合い意見を交わす場面でも、アプリの活用により短時間で作品を修正、発展させることができ、音楽授業における ICT 活用の可能性について深く考えさせられた。授業者が全体に向けて情報発信や作品共有を行う際にも大型モニターと板書を組み合わせるなどの工夫もあり、全体を通して ICT の利便性が大いに発揮された円滑な授業であった。



公開授業後の協議会では、中学校、高等学校の参加者がグループに分かれて協議を行い、出された意見を指導案のシート上にまとめた。公開授業の良かった点や課題、また、各自の創作授業についての経験を話し合うなかで、中学校の授業で ICT が日常的に浸透している状況を実感すると共に、創作の分野については中学校、高等学校を問わず先生方が生徒の学びを深める授業づくりにたいへん苦心されていることも分かった。



研修の最後に行われた新潟大学の高橋恒彦先生による講義では、創作の授業について

「音楽を形づくる要素を知覚することと、それらが生み出す良さや面白さ、特質を感受することの往還が大切である。この繰り返しを通して子どもの中に知識や技能が獲得され、創意工夫を生かした音楽表現に必要な技能を身に付けることができる。その段階で初めて漠然とした“イメージ”が具体的な“意図”に変わっていく。」というお話があり、創作授業の作り方について改めて考える契機となった。

最後にこの場を借りて、今回の研修会への合同参加を快諾いただいた新潟市中学校教育研究協議会音楽部の皆様に深く感謝申し上げます。

■美術科研修会・研究協議

(1) 第61回全高美工研2024本部大会

期 日：令和6年8月20日(火)

会 場：星陵会館（東京都）

7名現地参加

内 容：都道府県代表者会議

研究協議会

開会式

総会

閉会行事

2024年度は、本部大会として、一都三県が協力し、東京を会場に「持続可能な研究会のあり方」をテーマに参集型で開催された。2025年度新潟大会の準備状況、分科会発表原稿の募集など協力をお願いしてきた。

(2) 2025新潟大会実行委員会

期 日：①令和6年8月22日(木)

②令和6年11月29日(金)

会 場：県立見附高等学校

内 容：①・次年度新潟大会の調整

・新潟大会1次案内について

・役割分担について

・今後の予定

・その他

②・各部新着状況の確認

・全体の流れ検討

・分科会発表者確定

・各部より

■書道科研修会・研究協議

期 日：令和6年11月19日（火）

日 程：

9:00～9:20 受付・開会式
(新潟ふれ愛プラザ集会室)

9:20～10:20 協議会

10:45～11:35 研修① 遠隔授業参観
(県立新潟向陽高等学校)

13:20～14:20 研修② 鑑賞会
(新潟明訓高等学校
百周年記念会館)

14:50～16:00 研修③ 見学
(北方文化博物館新潟分館)

16:00～16:15 閉会式

参加者：11名

内 容：＜授業見学・鑑賞＞

I 開会式・協議会

部長挨拶 県立三条東高等学校

小堺さとみ 校長

- ・令和8年度全日本書道教育研修会富山大会について
- ・令和7年度書道科研修会について
- ・令和8年度役員について
- ・その他

II 研修① 遠隔授業見学「書道Ⅰ」

(授業者 佐藤雄司 教諭)

「新潟の未来を SaGaSu プロジェクト」の成果をもとに進められている「遠隔教育推進事業」配信校である県立新潟向陽高等学校が、受信校である県立阿賀黎明高等学校へ向けて遠隔配信する「書道Ⅰ」の授業を参観し、学校間連携、芸術授業における遠隔配信の実践課題等について考察する機会とした。

最初に、佐藤教諭から、配信側の遠隔授業システム構成（遠隔授業用の常設PC、スイッチャー、ディスプレイ、ビデオカメラ、ピンマイク、スピーカー、タブレット端末等）について概要説明を受けた。授業時間になると



受信校の書道室にいる受講生徒5名がディスプレイ上に映り、チャイムとともに号令・挨拶・出席確認とすすみ授業開始となった。受信側には授業補助者が付き、佐藤教諭からの指示を受けながら、個別に生徒が運筆する手元の様子を映し、佐藤教諭は生徒の状況を確認しながら、細やかに生徒に助言を行っていた。生徒は、大型ディスプレイに向かって助言を求めるなど、積極的に授業に参加する様子が印象的であった。佐藤教諭が画面越しに生徒の質問に答えたり、生徒が書いた作品を画面上で確認し助言を行ったりすると、生徒がそれぞれ上達していくのが見て取れる。また、ロイロノートを活用して準備した教材動画に合わせて説明をしたり、生徒が単元の内容を理解し、知識が定着するように確認テストをクイズ形式にして解説したりするなど、佐藤教諭の遠隔授業には、生徒が興味をもって取り組める工夫が大変多く取り入れられていた。

しかしながら、目の前で教諭と生徒が運筆する際に聞こえる紙の擦れる音、呼吸、繊細な所作など、同じ空間にいることで気づいたり、感じたりすることのできる温度感・空気感というものは、遠隔授業では伝えることが難しい。豊かな感性や情操というものはそういったところから生まれるものではないだろうか。配信に加え、年数回程度の受信校での対面授業が設定されているとのことなので、同じ空間での“醍醐味”の部分は、その機会にぜひ伝えていただきたいと思う。

研修② 鑑賞会

新潟明訓高等学校百周年記念会館2階展示室において、卒業生である新井 満 氏から寄贈された美術品コレクション、富岡惣一郎 氏、横尾忠則 氏、安藤忠雄 氏等の素晴らしい芸術作品を鑑賞した。また、卒業生である批評家、随筆家、若松英輔さんの『言葉の羅針盤』～手紙の効用～」が、棚に開いて置かれていた教科書に掲載されており、拝読することができ、有意義な時間を過ごすことができた。また、新潟県出身の偉大な芸術家や文人達の活躍もあわせて知ることができた。新潟県というのは、偉人を輩出する土壌があるのではないかと改めて感じ、芸術の授業や教科横断的な授業等をとおして、興味関心を高めていけるような授業を行っていきたいと気持ちを新たにした。



研修③ 見学

歌人・美術史家・書家である會津八一が晩年を過ごした建物である北方文化博物館では、八一の書や資料、日本庭園では歌碑の鑑賞をした。



Ⅲ 閉会式

副部長挨拶 県立直江津中等教育学校
長津綾子 教頭

この場を借りて、今回の研修会への協力して下さった皆様に深く感謝申し上げます。

英語部会

1 研修会

8月の夏季研修会、11月の全県研究協議会ともに、オンラインと対面を併用するハイブリッド形式で実施した。昨年からの形式で開催しているため、運営も円滑になってきており、実施後アンケート等を通しての参加者の要望や意見が反映された研修会が実現できているのではないかと考えている。特に全県研究協議会は昨年度に比べて参加者が倍増しており、次年度に向けて新たな課題を検討し、会員同士のネットワークづくりに貢献できるような内容や開催形式を工夫していきたい。

1) 夏季研修会

①実施日

8月8日(木) 13:00～16:35

②参加者

31名

③講師

新潟県立大学国際地域学部 茅野潤一郎教授

④講演テーマ

『高等学校における動機づけの重要性について』

⑤内容

茅野講師の講演では、「動機付けやエンゲージメントの重要性」「エンゲージメントを高めるプロセス」「エンゲージメントを高める授業の構成の仕方」についてのお話があり、エンゲージメントの観点から授業を見直すヒントを共有することができた。その後の協議では、講演の学びを授業に生かす方法について話し合い、協議内容を共有した。

「主体的に学習に取り組む態度」を育み、授業を魅力的にするために必要な学びを多く得られる素晴らしい講演と協議であった。

2) 全県研究協議会

①実施日

11月29日(金) 10:00～16:30

②参加者

116名

③講師

宇都宮大学大学院教育学研究科専門職学位課程

田村岳充 助教

④講演テーマ

『改めて考える「求められる生徒の学び、育てたい生徒の力」～同僚とともに取り組む生徒の主体的な学びを促す授業づくり～』

⑤内容

午前の部では、新潟明訓高等学校 前田由紀恵講師による「教室でみんなで学ぶダイナミクス」「力を伸ばす個別指導」をテーマとして長文素材を用いた模擬授業を参加者の高校教諭約70名を生徒役として実施した。午後の講演では田村講師がこの模擬授業を振り返りながら、同僚とともに取り組む授業づくりのヒントや、教科書の題材を生かし単元を貫く問いや学習課題を生徒と共に考えていくことの大切さについて講演を行った。生徒の学習意欲が高まらないのは、なぜ学ぶのか、どのように学ぶのか、を生徒が選択できていないからではないかという点について、参加者全てがそれぞれの気づきがあったのではないだろうか。自身の授業改善への意欲向上をうながす素晴らしい模擬授業と講演であった。

2 刊行物

「高教研英語部会誌 第69号」を刊行。

(内容)・研修会報告

・実践報告

・その他

(文責 長谷川 誠)

農 業 部 会

1 令和6年度

新潟県高等学校農業教育研究大会
新潟県立新発田農業高等学校

【大会スローガン】

「生徒の夢を創造し実現する農業教育の推進」

(1) 目的

新しい時代に対応した農業教育の実現に向けて、本県の農業及び農業教育が直面する課題について研究協議を行い、教職員の資質・能力の向上と農業・農業教育の発展・振興に資する。

(2) 日程

令和6年8月16日（金）

10：30～11：00 受付

11：00～11：20 開会式

11：20～12：00 農場協会総会

12：00～13：00 昼食休憩

13：00～15：00 研究発表および研究協議

1) 「森林教育は人作り」

県立高田農業高等学校

教諭 原 正博

2) 「昨年度の

基本問題検討委員会について（報告）」

県立加茂農林高等学校

教諭 近藤 和之

15：10～16：20 講演会

演題「曾我農園の

ブランディング手法について」

（株）曾我農園代表取締役社長 曾我 新一 様

16：30～16：50 指導講評

県立長岡農業高等学校長 村山 和彦

16：50～17：00 閉会式

(3) 会場

新潟市万代市民会館

新潟市中央区東万代町9番1号

(4) 講演会

演題

「曾我農園のブランディング手法について」

（株）曾我農園代表取締役社長 曾我 新一 様

要旨

私が約20年の経営経験を通じて実践してきたブランディングについて、言葉の力が商品価値を大きく左右し、ピンチをチャンスに変える可能性があることをお話します。

経営再建のために情報発信に注力し、知名度向上と売上倍増を実現し、赤字脱却やブランド確立、さらには結婚など私生活にも影響を与え、最終的に事業拡大と法人化へと進展しました。

規模拡大による資金繰りの悪化で再び赤字に転落し、家庭とのバランスにも課題を感じました。「選択と集中」を徹底し、経営の効率化と自身の健康管理に取り組むことで、持続可能な農業を目指しました。

6次産業化を取り入れ、直売所限定販売で希少価値を高めたことで売上が増加し、さらに家庭の時間も確保でき、奥さんの笑顔が増えたことが最も大きな成果となりました。

コロナ禍で外出自粛により直売所の売り上げが激減しましたが、消費者視点に基づいた結果、全国的に注目されました。特に「闇落ちトマト」は、見た目が悪い尻腐れトマトを新たなキャッチフレーズで販売し、メディアに取り上げられるなどして大きな成功を収めました。

価値は飾り立てるのではなく、視点を変えて今まで見落としていた価値を見出すことにあります。現在、同世代の農業者との協力を模索し、生産組合を作ることや、米生産の復活を検討しています。正解はなく、臨機応変に対応していくつもりです。



(5) 研究発表および研究協議

1) 森林教育は人作り

県立高田農業高等学校 教諭 原 正博

要旨

異常気象が続き、温暖化の影響が顕著になっている。子供たちが夢を持って生きるために、農業教員として環境



作りが重要だと感じている。人口減少と少子化が深刻な問題となり、教育機関の再構築が求められている。農業教育の価値が再認識され重要性を増し、課題解決に貢献する可能性が高く、農業実習や地域連携がその価値を示している。

林業実験・実習は非常に大きな危険と隣り合わせになるため、指導者は、安全に留意し手取り足取り教える。ただし、全て教えず、生徒を信じてある意味信じきらずに我慢する。そして、ジャストタイミングで注意する・よく褒める。

ストーリーイメージをして指導を行い、生徒に使命感を持たせる。世の中の困り事また役に立つことなどを見つけて、チームで考え行動することで感謝される。そこから自己肯定感が芽生え、やる気が向上し主体的な行動につながる。そして学校が楽しい、社会ってまんざらでもないと感じるようになる。指導者も生徒も、ストーリーイメージが大切。

林業・建築業の先人たちの言葉を教育現場に照らし合わせて紹介する。「木を見て森を見ず」物事の本質を見て行動することが大切である。

「スギの子3年」植え付け前の3年間が勝負。植えられたら自分では木は動けない。谷であろうと山の寒風が吹こうと、雨の降らない尾根に植えられようが、そこで一生懸命生きていくしかない。その基礎を作るのはその3年。生徒もまさしく同じである。「個性を殺さず癖を生かす。人も木も育て方は同じである。」多様な生徒がいるが、その生徒の活かし方が指導者の力量に関わってくる。まさしく森林教育は「森を育てて、人を育てる」農業教育も同様である。

2) 昨年度の基本問題検討委員会について

新潟県立加茂農林高等学校

教諭 近藤 和之

令和5年度基本問題検討委員会にて作成された「動画授業」について、各種委員による授業実践動画の放映がされた。



【授業実施者】

県立村上桜ヶ丘高等学校 教諭 永井 裕子

県立新発田農業高等学校 教諭 山本 吉孝

県立巻総合高等学校 教諭 梅川 雅弘

県立加茂農林高等学校 教諭 井ノ口 康史

県立長岡農業高等学校 教諭 鈴木 孝紀

県立十日町総合高等学校 教諭 新井 大和

県立柏崎総合高等学校 教諭 本間 正隆

県立高田農業高等学校 教諭 池亀 元喜

県立佐渡総合高等学校 教諭 高橋 幸太郎

2 令和6年度農業教育課題研究会

新潟県立加茂農林高等学校

(1) テーマ

「農業DXに関する先進的な取り組みと

農業教育への導入」

(2) 目的

昨今教育現場への導入が進むDX(データサイエンスの内容を含む)について基礎知識を身につけ、農業分野への応用について理解を深めることで、農業教育の充実を図る。

(3) 日時 令和6年11月28日(水)

14:20~16:50

(4) 会場 県立加茂農林高等学校 情報処理室

新潟県加茂市神明町2丁目15番5号

(5) 日程

14:10~14:20 受付

14:20~14:25 日程説明

14:25~14:30 開会式

14:30~16:30 講演と生成AIを使った演習

16:30~16:35 休憩

16:35~16:45 研究協議

16:20~16:30 閉会式

(6)参加者

新発田農業高等学校	2名
長岡農業高等学校	2名
高田農業高等学校	4名
村上桜ヶ丘高等学校	1名
巻総合高等学校	1名
柏崎総合高等学校	1名
十日町総合高等学校	1名
加茂農林高等学校	11名

(7) 講師 金沢学院大学 情報工学部

教授 桑野裕昭 様

(8) 内容

「農業 DX に関する先駆的な取り組みと農業教育への導入」と題して講師よりご講演いただきました。その際、参加各校が抱えている問題に関する話題も取り上げていただきました。

1)何故、私がここに？（導入）

①自己紹介と所属組織の紹介

- ・情報工学部は、金沢学院大学においては新しく設置された学部
- ・桑野先生はオペレーションズ・リサーチ、数理最適化、計画数学を専門とされている

②大学・高専機能強化支援事業

- ・文科省による理系強化のための事業で、金沢学院大学も初回公募で選定されている（現在2回目の公募まで実施済み）

③高等学校 DX 加速化推進事業

(DX ハイスクール)

- ・情報Ⅱ・数学を強化する高等学校を対象に、1,000万円の予算がつく事業
- ・新潟県の農業高校では、加茂農林高校と高田農業高校が選定されている
- ・今年度4月、文科省から各教育委員会に、DX ハイスクール校と大学・高専機能強化支援事業選定校との連携が指示されている

2)そもそも DX とは？

- ・Digital Transformation
- ・2018年経済産業省「DX レポート」発のものと、2020年文部科学省「教育DX・教育データの利活用について」発のものと、二種類の

DX があり、混乱の元になっている

- ・文科省による教育DXには「デジタイゼーション(タブレットや電子黒板導入)」→「デジタルライゼーション(ICTやクラウド等を活用した教育データの利用)」→「デジタルトランスフォーメーション(機器やデータを活用して生徒に合わせたオーダーメイド学習を実現する)」の三段階がある

- ・文科省では「MEXCBT」を準備しており、教育DXの実現を後押ししている。

- ・教育DXは既に成果があがっており、シンポジウム等で報告されている

- ・「DX ハイスクール」は、文科省の事業であるが、経産省発のDXの延長線上にある

3)農業高校でのDX事例

- ・秋田県立大曲農業高等学校
- ・鳥取県立倉吉農業高等学校
- ・兵庫県立農業高等学校
- ・デジタイゼーション、デジタルライゼーションができていてのDXだが、前段階ができていない学校も多いので、まずはDXハイスクールの予算でそこまで到達しておくといよい。

4)高知県でのスマート農業

- ・高知大学 Internet of Plants (IoP) プロジェクトによる取り組み（数理・データサイエンス・AI 教育強化拠点コンソーシアム関東ブロック第二回ワークショップでの講演内容より紹介）

5)アイデア出しツールとしての生成系 AI 利用

- ・DXハイスクールで何をするかアイデアを出すのに活用しては
- ・つながって使われやすい単語と単語をつなげて文章を作ってくれるのが生成系AI
- ・意味の通る文章が返ってくることが多いが、知らないことに対しては嘘を返す(ハルシネーション) ことがあるので注意
- ・データの分析は得意ではない
- ・ある程度返答の正しさが判断できる人が使った方がよい
- ・GPT-4oのoは「マルチモーダル」文字に

は文字、音声には音声で返せる

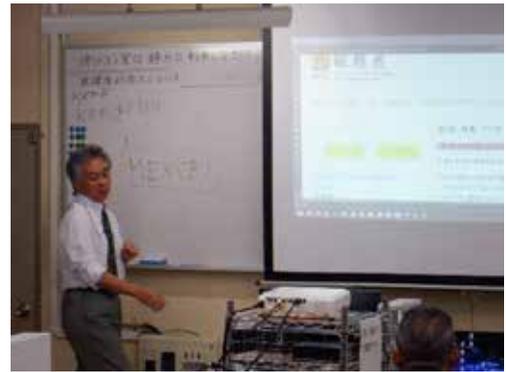
- RAG ができる AI は、必要な情報があるサイトをさがしてきてくれるので便利
- 正しい答えを得るには、AI に指示するための「プロンプト」の知識が必要 「Promptia」というサイトが参考になる
- 何回か「会話」して初めて正しい情報が戻ってくるので、検索とは違う
- 公開されている AI には、得手不得手があるので、気を付けて使う

ChatGPT：個人情報を入力すると学習してしまうので使用には注意が必要

- Gemini：Google から使えマルチモーダルなので絵も描ける
- Perplexity：情報源が示されるため検証しやすく、大学の研究で使っている

6) まとめて代えて（質疑応答）

- 何かやってみたいことがあって、予算に困っている場合は、大学に相談してほしい
- データの共有や集計を無料とするなら、Google スプレッドシートでデータを集め、Google Apps Script で分析・加工できる
- ハード面の補強は、DX ハイスクール事業を活用してほしい



工業部会

電気・電子系研究会(見学会・研究会)

- 1 期 日 令和6年7月2日(火)
- 2 会 場 (株)テック・エンジニアリング
本社および加工工場・組立工場
- 3 参加校 5校(9名)
- 4 日 程
10:15~10:25 開会
10:25~11:50 見学会
13:10~15:20 研究会
15:20~15:30 閉会

5 見学会

新潟県のほぼ中央に位置する燕市・三条市は高度な金属加工技術が集まるものづくりの町・金物の町として有名ですが、この地域のみならず国内外で使用されるFA関連機器を中心とした自動制御装置・産業用省力機械の設計から修理・アフターサービスまでを自社で行っている(株)テック・エンジニアリング様にご協力をいただきました。

会社の沿革・概要などについて、代表取締役 阿部 真一 様より説明して頂きました。

FA関連機器を設計・製造するのみならず、CNC旋盤・フライスなどを使用して金属加工や溶接作業等も自社で賄うことが出来る業界でも数少ない総合エンジニアリング企業です。



自社開発のデモロボット

依頼企業からのオーダーは、ワンオフ製品がほとんどで、お客様の培ってきた技術と当

社のアイデアと技術力を融合して装置を製造しています。また、自社で設計・製造したデモロボットを持参しての各種イベント(オープンキャンパス・文化祭・就活イベント)や出前授業にも積極的に参加しているそうです。

概要説明後、出荷前の製品や製造現場を見学させていただきました。

6 研究会

「製造業におけるIoT導入のメリットと実践例などについて」

講師 (株)テック・エンジニアリング

専務取締役 真島 浩二 様

製造業とは「新たな製品を生み出す仕事」であるが、抱える問題として、労働人口の減少・働き方改革の推進・国際競争の激化など様々を乗り越えて生産性の向上が必要だそうです。そのために必要なFA技術について実写を交えた説明や、これから主流になるとと思われるリモートメンテナンスについてお話を伺いました。



研究会の様子

いつの時代も製造業現場では慢性的な人手不足です。それを解消するために、熟練した技術が必要な単調作業を500万円程度のロボットに置き換える製作依頼が、零細企業をはじめとして多数あるそうです。最後に、職業教育を担う現場への要望として、ロボットの製造やメンテナンスに興味を抱く人材を育成してほしいという貴重なご意見をいただきました。

(記・県立新潟県央工業高等学校

情報電子科 本宮 信之)

建築研究会（研修・見学会）

- 1 期 日 令和6年10月2日（水）
- 2 会 場 県立新潟工業高等学校
北斗会館
アイコニックタワー建設現場
（新潟市中央区花園1丁目）

3 参加校 5校 （16人）

4 日 程

10：00～10：30	受 付
10：30～10：35	開会式
10：40～11：30	研修会
12：25～15：30	現場見学会
15：30～	閉会式

5 研修会

「福田組協力会社との意見交換」

建設業における「技能職の担い手不足」をテーマとして、新潟・下越地区の6社を招いて活発な議論を行いました。給与、土日祝日の休み、有給休暇、退職金など将来設計が見える環境を整えることで入職者を確保すること。学校において技能体験の機会を増やすこと等についての意見が交わされました。



研修会の様子

6 見学会

新潟駅南口に、暮らしとビジネスの新しい拠点として、株式会社福田組が建設中である

地上30階免震タワーマンション「アイコニックタワー」の現場見学をさせていただきました。このプロジェクトは、国交省が指定する「都市再生緊急整備地域」である、南口西側の約6,000㎡の敷地に、マンションとオフィス、駐車場の3棟を建築して、新たな価値を創出し、新潟駅と万代・万代島・古町を結ぶ都心エリア「新潟2キロ」の求心力向上に貢献するアイコニックな（象徴的な）建築物となることが期待されています。

2024年元日の能登半島地震は、免震装置設置後だったため影響は受けなかったそうです。免震装置は24本の柱全てに設置され、さまざまな揺れに対応できるように、装置は4種類採用されており、新潟では他に類を見ない高度な免震機能を備えたマンションとなっていました。特に4種類のうちの1つ「CLB免震装置（直動転がり免震支承）」の、井桁状に組み立てられた3mを超える巨大なレールによって、あらゆる方向へスムーズに滑動する様子を動画で見せていただきましたが、まさに圧巻でした。1フロア8日サイクルというハイスピードで工事を進めるために採用された、PCa工法におけるミリ単位での部材管理を担当する施工管理者としての責任感等、多くを学ぶ見学会でした。



見学会の様子

（記・県立新潟工業高等学校 建築科

小林 哲）

土木研究会

- 1 期 日 令和6年10月2日(水)
- 2 会 場 県立新潟工業高等学校
会議室
- 3 参加者 (一社)新潟県建設業協会7名
(6社6名、事務局1名)
高等学校 12名
- 4 日 程
13:00~13:20 受付
13:20~13:30 開会式
13:30~14:00 研究協議
14:20~15:45 意見交換会
15:50~ 諸連絡・閉会式

5 研究協議

研究協議として、各校より進路状況の説明、建設業協会様(以降協会)より業界への入職状況説明を頂き、その後質疑応答を行った。質疑応答では、協会側より、各校の進路指導方針、生徒が企業を選ぶポイントなどが質問された。また、高校生の採用にあたっての協会の考えや方針、離職させないための取り組み、入職後の育成方法を拝聴できる貴重な機会となった。

6 意見交換会

意見交換会として、テーマに沿ってグループ協議を実施した。テーマは「新卒者に1級土木施工管理の受験を推奨すべきか」と「入職後の定着率向上について」の2つを事前に選定し、協会、各校で検討した内容を踏まえて意見交換を実施した。

【新卒者に1級土木施工管理の受験を推奨すべきか】

今年度より1級土木施工管理技士補の受験

可能年齢が引き下げられ、19歳からの受験が可能となった。高校側としては在学中に2級土木施工管理技士補の合格ができるよう指導しているが、卒業後すぐに1級の受験が可能となる状況において、高校側として2級をどのような位置づけとして捉えるべきかということが、このテーマを選定した理由となる。そのような中で、協会側の意見は、各社の考えに違いはあることを条件としつつも、2級を取得した後に1級を取得すべきであるという意見や、1級の資格だけではなくそれに見合った経験も必要であるという意見など、受験年齢が引き下げられたからといって、直ぐに受験の必要は無いという意見があった。高校側としては従来通り、2級の指導を実施する方針を確認できる機会となった。

【入職後の定着率向上について】

令和4年以降県内建設業の離職が増えている状況であること、また、協会側が若手の向上心が薄くなっていることを課題していることからこのテーマを選定した。離職率低下に向けては、協会側、学校側ともにミスマッチの解消が必要であるという意見であった。そのために、インターンシップやデュアルシステム、出前授業や現場見学等を積極的に実施することが重要であることを確認できた。また、若手の向上心が薄くなっていることについては、成功体験の積み重ねが必要であるとうことで意見がまとまった。

7 おわりに

土木研究会開催にあたり、ご多忙にもかかわらず、新潟県建設業協会様より、事務局、各支部より7名の方にご参加頂いた。皆様に深く感謝申し上げます。

(記・県立新潟工業高等学校 土木科
酒井 大輔)

機械・電子機械系 見学会および研究会

期 日 令和6年11月22日（金）

会 場 日本製鉄株式会社

東日本製鉄所直江津地区

参加者 10名

【はじめに】

今年度は、鉄鋼メーカーとしてチタン製品の中核製造拠点として製造を行っている日本製鉄株式会社東日本製鉄所直江津地区様にご協力いただき、機械系見学会および研究会を以下の日程で開催致しました。

13:30	～	13:35	開 会
13:35	～	13:55	会社概要説明
13:55	～	14:45	工場内施設見学
14:50	～	15:20	講 演
15:20	～	15:25	質疑応答
15:25	～	15:30	閉 会

【概要説明・施設見学】

会社の沿革、ならびに事業内容などについて労政人事室 主幹 室橋 直之 様よりご説明をいただき、その後施設の見学をさせていただきました。



施設見学準備の様子

チタンは軽量（鉄の約60%の軽さ）、高耐食性（長寿命・メンテナンス低減）、高比強度（鉄の約2倍・アルミの約3倍）、環境適応など優れた特徴をもつ金属素材であり、それを活かしたマグカップやゴルフクラブ、バイクのマフラー、瓦に代わる屋根素材（増上寺・

八坂神社屋根に使用）など実物を実際に手にして軽量と強度と多色が可能という素晴らしさを感じさせていただき、その後、チタン溶解（EB・VAR 溶鉱炉）、2500 トンプレス等の設備を見せてもらうなど、今後の教科指導に参考となる貴重な機会をいただきました。

【講演：鉄鋼業界の動向について】

見学後、直江津総務室 室長 櫻井 和洋 様より世界および国内における鉄鋼業界の動向についてご講演をいただきました。



講演・研究会の様子

「世界は鉄でできている」というキャッチフレーズで、粗鋼生産量国内第1位を誇り、今後は生産量だけでなく、技術力やグローバル対応力を含めて総合力世界No.1を目指す、ということでした。

【おわりに】

このたびの見学会開催にあたり、ご多忙にもかかわらずご協力いただきました日本製鉄株式会社東日本製鉄所直江津地区の皆様へ深く感謝申し上げます。

（記・県立上越総合技術高等学校

機械創造工学科 寶田 哲朗）

工業化学系（見学会・研究会）

1 期 日 令和6年11月29日（金）

2 会 場 見学会1

（株）柏崎エコクリエイティブ

生ごみリサイクルプラント

見学会2

（株）チャレンジトゥエンティワン

ダスキン新潟工場

研究会

アトリウム長岡

3 参加校 3校（10名）

4 日 程 13:00～13:15 受付

13:15～14:15 見学会1

14:15～14:30 移動

14:30～15:30 見学会2

15:30～16:00 移動

16:00～17:00 研究会

5 見学会

柏崎エコクリエイティブは、特殊有機肥料「元気ゆうき君」を製造している会社である。今回は柏崎市夏渡の生ごみリサイクルプラントを見学させていただいた。

地域のスーパー、鮮魚店、飲食店などから出る魚のアラなどの生ごみを回収し原材料として、副原料の米ぬかを混ぜて攪拌し、高温高速発酵（7～8時間）、熟成・乾燥（2～3週間）、ふるいかけ袋詰めを行い、「元気ゆうき君」を製造しています。



見学会の様子 高温高速発酵処理機を見学

地域に根づいた『循環型社会の形成』を図っており、稲作や畑作で植物の健全な育成を助けているなどの説明をいただきました。

株式会社チャレンジトゥエンティワンは、ワタナベグループの企業として、多岐にわたって活動しています。ダスキン新潟工場はマットやモップなどのダスキン用品の洗浄・製造を行っており、『ゴミを出さないクリーンな工場』をテーマに掲げています。

掃除用具の生産・販売・回収をくりかえす循環型の事業活動に取り組んでおり、排水の浄化、回収したホコリをセメントの原料にするなど環境保全に配慮しており、多量の商品にタグを付け、生産性を大幅に向上させていました。

今回、見学させていただいた2つの会社とも循環型社会を実践しており、大変有意義な見学会となりました。

6 研究会

協議題

（1）令和6年度事業の報告

①日本工業化学教育研究大会東京大会

②北信越工業化学教育研究大会新潟大会

等についての報告

（2）令和7年度事業計画

①日本工業化学教育研究大会福井大会

②ものづくりコンテスト県大会

当番校 柏崎工業高校等の計画の確認

（3）その他

進路状況等情報交換

各校から協議題について説明、意見交換が行われ、課題が解決できるように協力して取り組んでいくことが必要だと感じました。

（記・県立柏崎工業高等学校

環境化学科 古川 耕一）

ロボット技術研究会（研修会）

- 1 期 日 令和7年1月14日（火）
- 2 会 場 長岡市さいわいプラザ
大ホール・和室
- 3 参加校 7校 （78人）
- 4 日 程

13:00～13:30	受 付
13:30～13:35	開会式
13:35～13:50	報告（長岡工業）
13:50～14:05	報告（柏崎工業）
14:05～15:30	分科会
15:30～16:15	講演会
16:15～	閉会式

5 研修会の概要

今年度のロボット技術研究協議会及び研究発表会は、長岡市中央公民館（さいわいプラザ）を会場として実施しました。講演の部では、長岡工業高等専門学校（長岡工業）の学生及び長岡技術科学大学の学生をお招きし、高専ロボコンの取組やNHK学生ロボコンの取組についてご講演頂きました。大会報告では、ロボット競技全国大会報告、ロボカップジュニア・ジャパンオープン2024名古屋大会報告、そして、各部門に分かれ分科会を実施しました。

6 講演会

今年度の講演会は、2校の上級学校より講演を頂きました。まず、長岡工業高等専門学校 ロボティクス部 関さんから、高専ロボコンの取組について発表を頂きました。ここでは、過去の実績や年間スケジュールについて紹介して頂き、高専独自の取組についても複数触れて頂きました。その中でも、「魔改造

の夜」についての発表は興味深いものがあり、高専の学生の技術力の高さに、参加した生徒及び先生方も深く関心を持ち発表を聞いていました。



長岡高専の取組

次に、長岡技術科学大学 ロボコンプロジェクト 西脇さんから、NHK 学生ロボコンについて発表を頂きました。学生ロボコンは、日本で最も技術のあるロボットコンテストとして紹介され、その技術力の高さに、参加した高校生からも、質問が投げかけられました。具体的な内容として、2019年からの規格Wi-Fi6を混線解消目的で導入し、操縦の追従性を高め、全国大会上位を常に狙い活動しているという紹介がありました。

7 報告

ロボット部門では、今年度栃木県で行われた第32回全国高等学校ロボット競技大会に出場した長岡工業高等学校の取組について発表されました。全国大会では、リモコンロボットの無線通信に障害が発生し、12位という結果に終わり悔しい思いをした体験を発表してくれました。



ロボット競技 全国大会

ロボカップジュニア・ジャパンオープン2024名古屋大会の発表では、ロボット部で複数の活動をしており、いくつかの活動について発表がありました。まず、ロボカップジュニアについて説明があり、ロボカップとは、次世代の人材育成のために開催されているロボット競技会のひとつで、2050年までにサッカーの世界チャンピオンチームに勝てる自立型ロボットのチームを作ることが、大会の目的になっていると、説明されました。

大会の魅力は、様々な技術に触れることができる点や、競技を見る楽しさだと説明していました。



サッカーロボット大会

8 分科会

分科会は、ロボット、マイコンカーラーの各部門に分かれて行われました。ロボット部門では生徒49名が参加し、新潟工業、長

岡工業、新潟県央工業、上越総合技術高校などが、全国高等学校ロボット競技大会栃木県大会に出場したロボットを持ち寄り、それぞれのロボット製作の技術について交流しました。マイコンカーラー部門でも、新潟工業、柏崎工業、上越総合技術高校の生徒8人及び新採用2年目教員が、技術交流を行いそれぞれ充実した分科会となりました。

9 おわりに

今年度講演会では、授業期間中にもかかわらず、長岡工業高等専門学校及び長岡技術科学大学の学生さんにご協力頂き、各学校の取組について報告を頂きました。

参加した高校生は、次年度大会に向けて各自のロボットをどのように改めて行くかについて、学校の枠を越え話し合う姿は、とても印象的で、有意義な時間を過ごせた事を、この場をお借りして深く感謝申し上げます。



分科会

最後に、県内工業高校におけるロボット関係競技への指導者不足や、種目の縮小については、継続して今後の検討課題ですが、新採用者の工業教員参加などの取組により、継続して競技会への参加を目的とした活動につながる事を期待します。

(記・県立長岡工業高等学校

電気電子工学科 勝又正史)

商業部会

- 1 期 日 令和6年11月20日
- 2 会 場 新潟産業大学講堂
- 3 主 催 新潟県高等学校教育研究会商業部会
- 4 当番校 新潟県立柏崎総合高等学校
- 5 参加校 9校（15名）

6 日 程

受	付	13:00～13:30
開	会	13:30～13:45
講	演(1)	13:45～14:45
講	演(2)	15:00～16:20
指	導校講評	16:20～16:30
閉	会	16:30～16:40

7 講演(1)

演題「柏崎市の観光」

柏崎観光協会

事務局長 飛田 成雅 氏



(1) 柏崎観光協会について

現在市内外の約200の事業所及び団体が会員となっており、会員からの会費及び行政からの負担金を資金源として活動を行っている。

(2) 柏崎観光協会の主な活動

- ・観光交流センター「夕海」、「かしわざきセントラルビーチ」の運営、各種イベントの企画、運営
- ・「観光パンフレット」の制作とHPやSNS（インスタ・FB・LINE）の運営
- ・東京他関東圏での県外イベントで地元製品の販売と観光PR活動。
- ・観光協会のテーマは「稼ぐ観光」である。

(3) 新しい観光ビジネスの潮流

現在、当協会は「柏崎らしい付加価値の高い観光商品の開発」を進める活動に取り組んでいる。付加価値のある商品、付加価値の高い商品を、適正な価格で販売するという考え方である。「こんなに高く売れるのだろうか？これではお客様は来てくれないのでは？」という弱気な事業者が多い中で、自信を持って付加価値の高いサービスや商品売るという今まで以上に積極的な、攻める姿勢（当然サービスや品質もしっかりと確立させるのが前提で、個々の企業努力による。）である。

観光ビジネスは具体的な「モノ」を売ることもさることながら、「コト」思い出や喜びを売るビジネスだと思う。それには定価はない。価値や価格が適正かを判断するのはお客様だ。

つまりは、観光業界は「無限大の伸び代がある業界」だといえる。これがまさに「稼ぐ観光」だと考えている。

8 講演（2）

演題「起業教育と商品開発」～その目的と課題

新潟産業大学 教授 大石 友子 氏



（1）起業教育について

①起業（アントレプレナーシップ）教育とは

（2）起業論

①起業論で何を学ぶか

②起業論の構成

③起業を取り巻く環境を知る

④企業活動の変化（イノベーションの必要性）

⑤起業の基本ステップ

⑥起業を学んだ学生たちの事例

（3）商品開発論

①商品開発論で何を学ぶか

②商品開発の基本

③商品企画

・マーケットイン（インサイト）型

・イノベーション（プロダクトアウト）型

（4）企画を立てるために

①発散思考（何かを思いつく思考）

ア 自由連想法（次々に思いつくままの発想ブレインストーミング・BS法・・・）

イ 強制発想法（強制的に結びつけ発想する方法
チェックリスト法、カタログ法・・・）

ウ 類似発想法（本質が同じようなものを探し出してヒントにする方法、シネクティクス、NM法・・・）

② 収束思考

ア 空間型（演繹型分類法を決めてその分類ごとにデータを集める。図書分類法・各種分類法など）

イ 帰納型（類似のデータを集めて新分類を作る。
KJ法・クロス法など）

ウ 時間型（時間の流れに従いデータを集める
PERT法など）



（5）課題

シンポジウムやビジコン等の機会を通じて啓発活動を展開しているにもかかわらず、依然として受講者の裾野拡大が課題であり、課題解決へのアプローチとして、①人材に関わる課題（外部人材の活用、チームビルディング）、②インフラに関わる課題（理論と実践の場の提供、インキュベーション機能、企業との連携）、③将来に結びつくことの可視化（自分のこととして考える）が考えられる。

9. 指導講評

新潟県教育庁高等学校教育課

指導第2係指導主事 佐藤 恵美 様

10. 閉 会

水産部会

水産教育研究会

(1) 期 日

令和6年6月20日(木)

(2) 会 場

糸魚川市能生生涯学習センター
多目的ホール

(3) 研究協議

[主 題]

「新しい時代をリードする、創造的な水産・
海洋教育はどのようにあればよいか」

[研究発表]

副題1「水産・海洋高校における『令和の
日本型学校教育』はいかにあるべき
か」

新潟県立海洋高等学校
教諭 金子 義昂

急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力を、「一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識すること」「多様な人々と協働すること」「社会的変化を乗り越え豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となること」「ICT を効果的に活用すること」として捉え、「糸魚川市の地域課題の解決に寄与する学習活動」「海洋教育普及活動」などを通じて、これらの資質・能力を育成することについて研究を行った。

具体的には、本研究において、「マリンスポーツイベントの企画・運営」「出前授業(小学校)『スノーケリング体験』」を通じて、生徒の資質・能力を育むことに取り組んだ。

その結果として、生徒に次のような変容が現れた。

- 小さな声で口数少なく、コミュニケーションに苦慮しており、学習への積極性が高くない生徒が、シーカヤックの指導がきっかけで「自分の可能性」を認識し、コミュニケーションを必要とする仕事に興味を持っ

た。

- コミュニケーション力はあるが、引っ込み思案な生徒が、授業の振り返りに、「人前で話すことがすごくきつかったけど、練習を重ねて自信をもって話せるようになったことが良かった」などと記述した。
- 学力は高いが、人間関係がうまく構築できない傾向の生徒が、シーカヤックイベントの受付・誘導等の係として、全体をまとめ各所に的確な指示や調整を行い、振り返りに「周囲に指示をだして物事を進めていくやり方が理解できた」と記述した。

今後はこれまでの取組に、学校見学等の対応も生徒が行うなど、生徒の活躍の場を確保することなどの取組を加えて、研究をさらに深める。



[資料発表]

副題2「水産・海洋高校の『新時代の教師像』はいかにあるべきか」

富山県立滑川高等学校
教諭 岡田 洋朗

文部科学省のリーフレットには、GIGA スクール構想の理念として ICT 機器を活用して生徒や教員の力を最大限発揮することが記載されている。その事例として、スライドを使用した学習教材の提示、調べ学習をさせ発表活動を行うこと、デジタル教材を活用すること、学習の進捗状況を可視化することなどが挙げられている。特に普通教科の活用事

例は具体的に書かれており、例えば、理科では実験過程を記録し、深く分析・考察をしたり、社会ではデータを加工して可視化したりすることが紹介されている。そして、STEAM教育も推奨されており、教科「水産」の科目「課題研究」がこれに該当しており、「課題研究」における情報処理機器を活用したレポートの編集はICT教育そのものであった。そこで、ICT機器の活用およびICT教材の共有化の効果的な実践事例を調査研究することを目的とし、本年度は、課題の設定と実践事例を積み重ねることとした。そして、滑川高校の海洋科の教員でICT機器の活用について、話し合いを行い、ICT機器による「共同編集技術」を実施していないことに気づいたため、研究課題を「リアルタイム共有ソフトの活用事例の研究」とした。そして、Googleスライド、Googleスプレッドシート、Googleフォーム、および、Kahoot!(カフート)の4つのアプリケーションを使用した教材を作成することとした。



(4) 学科別協議話題提供

[海洋工学系]

「海洋工学系学科において、課題解決型学習の深化を図り、専門性と実践力に加え、コミュニケーション力や表現力を備えた人材(即戦力として活躍できる人材)を育成するためにはどのようにすればよいか」

石川県立能登高等学校

教諭 高山 琳太郎

石川県立能登高等学校は、能登町の海沿いの全校生徒184名の小規模校である。普通科と地域産業科の2学科があり、地域産業科の中に生物資源コース水産選択があり県内において唯一水産を学ぶことができるが、令和6年能登半島地震によって施設に大きな被害を受け、まだまだ復旧には時間を要す。

水産科の授業は、教諭2名実習教諭3名で行っており、様々な分野を取り扱うことが難しい。海洋工学系の取組は、実習船「おとり丸」を使用した船舶の機関の取り扱いを学び、自分たちで出航から操船までを実習の中で行う程度で、普段の授業の中ではなかなか海洋工学系の取組は行うことができていない。しかし、学校近辺には町の水産物加工処理施設や冷凍庫、日々せりが行われている漁協、さらには漁師さんなど水産関係の施設や人々があふれている。この学校外の水産関係施設・水産関係者の協力により、座学では学べない、卒業後の仕事のイメージを持ってもらえるのではないかと考えている。また、実際に働いている方々から直接学び、自分たちに不足している事、必要とされている知識や技術を学ぶことで、就職を迎えるにあたっての準備を自発的に行う生徒を増やすことにつながると期待している。



今年度、能登高校は文部科学省の高等学校DX加速化推進事業に採択された。これを受けて水産科では、授業の中でICT機材等を用いた新しい水産業の形、いわゆるスマート水産業に触れる機会を導入していく。この事業の中では、ただ魚を養殖・畜養するだけで

なく、水質管理機材等を調整し、遠隔監視を行うまでを自分たちで行うことを想定している。この事業により生徒たちの「自分たちで考える力」「仲間と協力する力」「困難に立ち向かい、学びに向かう力」などの力を育成していく。

[潜水系]

「水産業や海洋関連産業の振興及び社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む潜水教育とはいかにあるべきか」

福井県立若狭高等学校
教諭 中村 恵美莉

本校では、2年次に選択科目として、科目「ダイビング」か、科目「小型船舶」を2単位履修する。ダイビングに関しては、2年次に潜水技術検定2級の筆記と潜水士の取得を目指している。そのため2年次の授業はほぼ座学のみであり、実技があったとしても教室でできる器材セッティングなどである。そして3年次前期に4単位（年間で見ると2単位）で実技指導と実技検定を行い、潜水技術検定2級を取得することが目標である。

このような状況でレジャーダイバーは育つが、授業内で水産業や海洋関連産業の振興及び社会貢献まで行えるダイバーは育てることができていない現状がある。一方で、部活動のスキューバダイビング部があり、水産業や海洋関連産業の振興及び社会貢献につながる活動を行っており、次にその事例を紹介する。

- ① アマモ場の保全（地域漁業者や漁連と協力してアマモの種を集め、定植活動を行っている。更にアマモ場がどのように分布しているかの調査を行っている。）
- ② 釣り場の海中清掃（ルアー等のゴミを清掃し、環境保全活動を行っている。）
- ③ 地域漁業者の依頼での潜水（新製品を

つくるために海中を利用しているため、その設置と状況把握と回収作業を請け負う予定である。）

今後の取組として、今年度は授業時間内で、生徒がダイビングを通して社会と繋がりを持つための方法を考えさせたい。具体的には、潜水士としてどのような仕事があるのかを知る機会を生徒に提供し、まずは第一歩として潜水士が社会においてどのような仕事をしているかを知ることで生徒たち自身ができることを考えるきっかけづくりを行いたい。次にライセンスを取った生徒達が、ダイビングを通してどのようなことを地域や水産海洋関連産業にできるか考える機会を作りたい。生徒が情報もなく考える事は大変難しいと感じており、私個人としてどのような授業を作ることができるか現在悩んでいる。



家庭科部会

1 全県講習会

期 日 令和6年8月5日(月)

会 場 蔵春閣

(1) 部長挨拶

新潟県高等学校教育研究会家庭科部会部長

新潟県立長岡大手高等学校長 江川 真

開催にあたり、一言お祝いの言葉を申し上げます。7月30日(火)長岡のホテルニューオータニで北信越家庭科高等学校長協会総会が開催され、その翌日の31日(水)に同じく長岡で家庭クラブ北陸ブロック大会が開催されました。30日の北信越家庭科高等学校長協会総会では、北陸4県の高等学校長の実践発表で各県の家庭部会における課題や取組事例で理解を深めました。また31日の家庭クラブ北陸ブロック大会では、家庭クラブの「高校生は家庭生活の大切さについて考える機会を持つ」という理念を再認識する良い機会となりました。改めて学校家庭クラブ活動は、以下の4つの精神を活動の柱として生徒たちが主体となって「研究活動」「ボランティア活動」「交流活動」を行うものです。「創造」新しいものを創造し飛躍しようとする意欲をもつこと、「勤労」主体的に活動し実践すること、「愛情」優しくあたたかい気持ちをもってものごとにあたること、「奉仕」他者への思いやりの心をもって接すること、学校家庭クラブ活動で育つ力とは、生活を科学的に探究する方法や課題解決能力を高め、これからの社会を生き抜く実践力と想像力を育て、活動を通して培われたコミュニケーション能力は、人と人とのつながりを深め、思いやりの心を育成し、体験や実践を通して育まれた人間力は、これからの未来を担うリーダーとして社会に貢献する。とあります。これはすなわち「総合的な探究の時間」で求められる力と同じです。つまり家庭クラブは昭和28年(1953年)に結成当初から先進的に探究活動を行って

きたこととなります。その先進性に家庭クラブの歴史と不易を感じました。

本日は、午前中に講演1として新潟製粉株式会社 代表取締役 藤井義文様、管理部長の錦織雅子様からお越しいただき、ご講演いただき、昼食に地元の食材を使ったお弁当に舌鼓を打ち、午後はこの新発田市の蔵春閣の見学をして歴史を感じ、講演2として新発田市みらい創造課企画政策係長 齋藤直樹様からご講演をいただきます。本会の開催にあたり、幹事校の皆様には、準備から運営まで、ご足労いただき感謝申し上げます。本日の会が皆様にとって有益なものとなり、生徒に還元できるものであることを祈っております。

(2) 主管校校長挨拶

新潟県立新発田商業高等学校長 大島博文

ようこそ新発田においでいただきました。ここ新発田市は、平成15年に月岡温泉のある豊浦町と合併し、平成17年に紫雲寺町、加治川村と合併し、現在の人口は9万人ほどになります。

本日の会場、「蔵春閣」は新発田市出身の大実業家・大倉喜八郎氏の別邸を移築したものです。大倉氏は、現西新発田高校の敷地内にあった私塾「積善堂」で学問を深め、17歳で江戸に出て、やがて実業家として成功を収めるわけですが、大倉商業学校(東京経済大学)や商法講習所(一橋大学)、同志社大学(同志社学院)などの学校設立にも尽力された方です。

大正5年(1916)、大倉氏が80歳で2度目の帰省をした際に、当校開設を喜び、「処世訓」を贈っていただいています。その文中から、「一事専念 堅忍不拔」を採字して当校の校訓としています。

本日は、大正ロマン感じる蔵春閣において、充実した研修となるよう期待して主管校挨拶とします。

(3) 来賓挨拶

新潟県教育庁高等学校教育課指導第2係
係長 佐野 由美子 様

開会にあたり、一言ご挨拶申し上げます。先生方におかれましては、日頃より家庭科教育を通じた生徒の成長にご尽力いただき、感謝申し上げます。また、全県から先生方が本講習会にご参集され、今後の授業づくり等に生かすため、研鑽を積む意欲や姿勢に改めて敬意を表します。校長先生方、そして主管校の先生方には、本講習会の開催にあたり、これまでのご準備・運営等にご尽力いただきましたことに感謝を申し上げます。さて、本日の講習会は、二つの講演と会場の蔵春閣の見学・説明という大変充実した内容となっております。家庭科における、地域の特徴を生かした食生活環境、まちづくり、そして伝統文化についての知見を深め、高校生に身につけさせる資質能力を育むためのヒントを得ていただきたいと思います。本日の会が実り多いものになり、今後も本県、家庭科教育の一層の充実が図られることを祈念いたしまして挨拶いたします。

(4) 講演

「未来の食を KOMAKO から」

講師 新潟製粉株式会社
代表取締役 藤井 義文 様
管理部長 錦織 雅子 様

(ア) 会社概要説明

平成10年、胎内市（当時は黒川村）が国・県の補助をうけて、「微細粉技術（うるち米を小麦粉のように使用するために新潟県が開発した技術）」による新規米粉を世界に先駆けて実用化するために設立された。これまで民間企業と製品管理や研究、販路拡大等を協調しながら進んできた。会社の使命は、お米の用途を広げ、消費拡大に寄与すること。

(イ) 日本の食料事情

昭和40年代から令和2年にかけての比較では、昭和40年代、年間約111kgあった米の消費は約50.7kgに半減。小麦の消費はあまり大

きく変わらない。肉類、乳・乳製品、油脂類は、3倍以上に増加し食が欧米化した。それにともない食料の輸入割合が増え、食料自給率が落ちた。令和12年度までに食料自給率を約10%あげる目標を掲げているが、実行性はむしろかきいと思われる。

(ウ) 小麦の状況

国内での小麦の生産は、少々増加してはいるものの、用途に応じた品種や量の確保には、まったく足りていない。一昨年のアメリカ、カナダでの不作やウクライナ侵攻やなどにより価格が大きく上昇しており、自国での生産量を増やすことが重要。しかし農家にとっては、米粉用米でも一番ノウハウをもっている米作りをやりたいというのが本音である。

(エ) 米粉ができるまで

せんべいや団子などの和菓子からなんとか用途を広げたいということで新しい製粉製法によってできたのがいわゆるパンや麺用の米粉。従来の上新粉はかなり粗いもの、いかに細かい粉を作るかの研究開発がなされてきた。米は主にこしいぶきを使用。2段階製粉では、水洗いした米を浸漬、脱水して圧偏ロール粉碎と気流粉碎をおこなう。また、酵素利用粉碎という圧偏ロール粉碎の代わりに酵素を溶かした温水に浸漬、脱水後、気流粉碎をするものがある。2段階製粉は、しっとりさせたいケーキ類向き、酵素利用粉碎は、添加したグルテンが働きやすいため、パン・麺類に向く。小麦粉に比べアミノ酸スコアも高く、グルテンのアレルギー対応にも向く米粉を消費者の皆さんにもっと利用してほしい。

(オ) 製品の紹介

国産小麦とコラボした米粉パン（敷島製パン）、給食用米粉パン、お米のうどん（岐阜県小林製麺）、ぎょうざ（リンガーハット）、カレーうどん（西尾食品）など

(カ) 今後の課題

日本は人口減少の社会に入っているが、世界的には人口増の傾向。国内で安定して食料確保

できるかが、今後の課題。作物の生産には農地、水の確保や農業機械の発達も必要、また、やはり農家の方々に将来性を持って農業をしていただくようにすることが、最も大事なことである。お米の消費拡大を理念に米粉を作らせていただいているが、用途について若い人たちのアイデアをいただき、需要拡大につなげたい。

(キ) 米粉の利用方法について

県内高校生の進学率が80%を超えているという状況がある。また、大学生の約9割が自炊をしているというデータもある。今は、インターネットで手軽に調べられ、簡単にできる調理が人気。しかし、調理になれていない若者にとっては、親に聞いたり、自分が経験したりしたことが身近になってくると思われるため、高校生のうちに米粉の調理を経験してもらいたい。また、安心安全な国内の米粉を食材の一つに利用できる人になってもらえたらありがたい。

米粉のメリットは、ダマになりやすく、モチモチした食感が得られること。デメリットは、老化が早くパンなどは、固くなりやすいこと。また、グルテンがない分、生地がまとまりにくいことなどである。デメリットの改善方法としては、固くなったパンは温め直し、から揚げの衣には、半分片栗粉を足すなどだが、まずは、小麦粉の代わりに日常使いに取り入れて、いろいろ試してみたい。

(5) 蔵春閣見学

(6) 講演

「住みよいまち日本一 健康田園文化都市・しばた」を目指して～4つの視点による新発田市のまちづくり～

講師 新発田市みらい創造課企画政策係

係長 齋藤 直樹 様

新発田市は、一貫して十年間程度、この将来像と酒造を旗印にまちづくりを進めている。良質なコシヒカリ、新発田牛、アスパラガス、越後姫等々、農業を基幹とする町。歴史においては、江戸時代十万石にまでなり、新発田城周辺にも清水園や足軽長屋、寺町など風情がある。新発

田市は、新潟市のベッドタウンという側面もありつつ、阿賀北地域の拠点となる町という自負があり、その二つを両立させるような街づくりをしていく必要がある。

(ア) 新発田市の現状と将来予測

今の最大の課題は人口減少。人口減少が進むことによる問題は、①民間の経済活動の減（消費・雇用）②税収の減（施策展開やインフラの整備の財源）③まちの活力の減（まちの魅力、住民のつながり元気）。これにより、首都圏に仕事、物、情報が集中し、若者人口は首都圏へ流出。さらなる人口減少につながっていく。厳しい現状現実も捉えた上でまちづくりをすることが肝要。

(イ) 新発田市のまちづくり

「健康田園文化都市・しばた」のまず「健康」というのは、住民の命、健康を守ること。健康寿命を延ばす取り組みを県内でいち早く始めたと自負しており、高齢者に、自分の暮らしている街でいきいきと暮らしてもらうことを目的にしている。「田園」は、農業に代表される産業、仕事を作るという意味を込めている。若い人に住み続けてもらうには、仕事がないことには話にならない。若い人がちゃんと生活できる。結婚して子どもを持つと思える収入を確保できるような仕事、雇用の場をしっかりと確保するという思いで掲げている。そして、「文化」については、新発田市の歴史伝統という大切なところに学び、学力をしっかりと身につけさせる町ということ。「健康長寿、少子化対策、産業振興、教育の充実」この四つの視点を持って、将来都市像を目指している。四つの視点ごとに、代表的な取り組みを紹介する。

①健康寿命（食・運動・生きがい・医療）

高齢者が若者と交流しながら活動する生きがい作り

- ・新発田農業高校と協力した農業体験
- ・新発田市内の大学と協力したe-スポーツによる「脳活」

②少子化対策（子育て支援）

- ・かかりつけ保健師制度の導入
- ・雨天時や冬期間でも遊べる、ニーズを従属させた施設の整備

③産業振興（誘客・販路拡大）

新発田の特産品の輸出促進。新発田の観光資源、歴史資源を生かして新発田に訪れていただけるようにとセールスをかけている。（新発田牛、月岡温泉、蔵春閣など）。

④教育の充実（学力の向上・郷土愛の醸成）

学力の向上とそれに加えて郷土愛の醸成というような取り組みを展開している。新発田市には、6つの高校があり、大学短大と合わせると8つ教育機関があるが、そこの学生たちを対象に「まちづくりドラフト会議」という取り組みをしている。総合学習の時間で、行政側が提示した課題や自分たちの身の回りの課題に取り組み、代表者が行政、もしくは民間企業に対して提案（発表）をするというものを年1回、運営しており、新発田商業高校からも毎年活動してもらっている。商店街に商業クラブが運営している「ふくら」というお店があり、地元の特産品の販売や商店街の活性化を目指した活動をしていただいている。また、新発田高校と日本旅行の連携によるスタディーツーリズムの旅行商品の造成などあり、高校のまち新発田の特色と思っている。

（ウ）中心市街地のまちづくり

～活性化に向けて～

以上の4つの視点の取組と、次の①～

③の整備を十年かけてスリーステップで進めてきた。

①まちの輪郭づくりー新発田駅を中心にコンパクトに都市基盤を整備し、運営を効率的に行える形に

②「まちの目鼻立ち」として賑わいの核となる都市拠点を整備ー新発田市役所や子育て支援施設、新発田城前には、市民の安心安全を守る防災公園を整備

③まちの表情づくりー①、②で生まれた賑わいを町全体に広げる取り組み（定住・交流人口増

加）民間が企画した提案に対して、行政が後方側面を支援、実現に向けたお手伝いをしていく。まちの施設や歴史資源などを使ってイベントなどを民間の方の力を使って展開されて、それによって人が行きかい賑わいあふれる街づくりということを目指している。

（7）指導・講評

新潟県教育庁高等学校教育課指導第2係

係長 佐野 由美子 様

講演1、藤井様からは、新潟県の農作物の代表である米の加工品である米粉が、どのように私たちの食生活を豊かにすることができるか、ご教示いただきました。「新しい食文化」は、キーワードと思います。日本の食料事情、小麦の状況、米粉の特徴についてのお話や今後の課題として、世界の人口と穀物需給、日本の食料の安定供給への不安増や農業従事者数と農地面積の減少など示されました。世界規模の課題の解決につなげるために、家庭科では生徒たちに何をどのように伝え、考えさせるか、授業づくりの工夫が大切であることを再認識しました。食の安全安心は、誰かが作っていくものではなく、私たち生活者一人ひとりがしっかりと課題を認識し、生活の中でできることを実践していくことが大切です。錦織様からは、若い世代の食生活の状況をご教示いただくと共に、米粉を材料としたレシピも紹介いただきました。

午後は、大関様より蔵春閣のご案内、ご説明をいただきました。荘厳な建造物を会場とし、当講習会が開催されていることは大変感慨深く、新潟県新発田市ゆかりの大倉喜八郎翁の功績の大きさ、歴史と伝統の素晴らしさを実感することができました。

そして、講演2では、齋藤様より新発田市の現状と課題、まちづくりについて具体的にご教示いただきました。健康長寿、子育て支援、産業振興、郷土愛の醸成等は、家庭科の学びにつながる内容ばかりです。生徒の目線で地域づくり、まちづくりについて主体的に課題を見つけ、課題解決に取り組むことは、社会に開かれた教

育課程の実践にもつながると思います。

本日の講習会では、食生活や人口減少問題と社会全体の課題について、企業や行政機関としてどのように課題に向き合い、その課題解決に取り組んでいるかご教示いただきました。これらは、これからの社会を生き抜く力、生きる力を生徒に身につけさせるために高等学校家庭科教育が取り組むべき方向性を示していただいたものと考えております。先生方におかれましては、本講習会で得たことを今後、授業に有効にご活用いただき、生徒に還元していただきたいと思っております。本日はありがとうございました。

(8) 閉会挨拶

新潟県高等学校教育研究会家庭科部会副部長

新潟県立見附高等学校長 丸山 綾子

講演1では、米粉の特性や細分化された技術の開発・商品などを学びましたので、持ち帰り、授業等で生かせるようにしていきたいと思っております。そして、講演2の方で紹介されましたように、各学校で少子高齢化、人口減少、地域活性化の課題を踏まえて探求活動に取り組んでいる学校は多くなっております。将来の地域の担い手となる高校生が、体験を通して自分たちができることを考えていくことは、主体性を育む上でも大事な学びであります。それぞれの地域のことをよく知り、地域の課題と自校の生徒にとって必要なことを合わせながら学んでいきたいと思っております。

また、本日の研修会場である蔵春閣ですが、迎賓館として役割を担った本館の和風装飾と洋風装飾のみごとな室内を見学させていただきました、本当に貴重な機会となりました。

高等学校教育課の佐野由美子様からはご指導・ご鞭撻をいただきました。ありがとうございました。

部長の長岡大手高等学校 江川校長先生をはじめ、本講習会の準備・運営にあられました下越地区の先生方に感謝申し上げ閉会の挨拶とさせていただきます。

2 研究成果の刊行

「家庭科研究第60号」発刊

新潟県高等学校教育研究会家庭部会、新潟県立教育センター、新潟県高等学校校長協会家庭部会、全国高等学校家庭クラブ、全国高等学校家庭科技術検定などからの報告を集録。



保健体育部会

1 保健体育部会 全県研究会

期 日 令和6年12月6日(金)
会 場 新潟健康づくり・スポーツ
医科学センター
参加者 24名
研究テーマ 「最近の保健体育事情」
「障害者スポーツとは」

【講演】

「最近の保健体育事情」
新潟県教育庁保健体育課
指導主事 山田 耕平 様



「障害者スポーツとは」
サムティアセット(株)
永田 務 様

2002年 県立村上桜ヶ丘高校卒業
同年 自衛隊高田第2普通科連隊入隊
マラソン選手として実業団に所属
2008年 株式会社日本アクシーズに入社
2010年 勤務中の事故により障がいを負う
2019年 新潟県障害者交流センター入職
2021年 東京パラリンピック 出場
T46 マラソン 銅メダル獲得

自身が挑戦し続ける姿をを見せることによって誰もが輝ける社会を伝えていきたいという思いについて講演いただきました。

2 全県養護教諭研修会

期 日 令和6年10月22日(火)
会 場 新潟ユニゾンプラザ
(講演のみライブ配信併用)
参加者 会場参加65名、オンライン参加30名

【講演】

新潟青陵大学大学院
臨床心理学研究科
准教授 小林 智 様

「ブリーフセラピーによる生徒支援の
範囲・方法・効用」



3 刊行物

研究集録 第60集
研究会や講演会の内容を収録
新潟県高教研ホームページに掲載

情報部会

1 研究会

(1) 生成 AI に関する講演会（後援）

期日 8月26日（月）

会場 新潟県立大学

講演

演題

「生成 AI の仕組みと活用事例」

講師

NTT-ME サービスクリエイション部

亀井 雄介 様

講義内容

- ・生成 AI とは
- ・プロンプトとは
- ・活用時に知っておくべきリスク他

後援

新潟県高等学校教育研究会

にいがた情報教育研究会

(2) 情報教育研究会（Web開催）

期日 9月26日（木）

講演

演題

「『人工知能入門』を通して考える
情報リテラシーの必要性」

講師

新潟大学・教授

山崎 達也 様

研究発表

テーマ

「情報教育で育む読解力」

発表者

神奈川県立横浜国際高等学校

教諭 蒲田 高穂 様

参加者 26名

2 代議委員会（書面審議）

議題

令和6年度高教研情報部会役員について

令和5年度事業報告および決算報告

令和6年度事業計画および予算について

3 研究成果

研究成果については情報部会HPに掲載する予定です。

生徒指導部会

1 全県委員会

第1回 日時 7月9日(火)

会場 県立巻高等学校 視聴覚ホール

第2回 (書面審議)

2 全県研究協議会

日時 11月12日(火)

会場 県立巻高等学校

視聴覚ホール・会議室

内容 講演会及び研究協議

<研究協議>

「うちの学校の不登校って？」

～ワールドカフェ方式で三つの提案を作ってみよう～」

<講演会>

演題「生徒指導提要と不登校支援」

講師 広島大学大学院人間社会科学研究科

教授 栗原 慎二 様



3 刊行物

生徒指導部会誌 第57号

内容 研究内容・資料・部会活動報告

冊数 330冊



図書館部会

1 総会・講演会・研究協議会

期日 令和6年9月6日(金)
会場 新潟ユニゾンプラザ
小研修室3
参加者 18名

2 刊行物

『図書館部報』第68号

内容

【講演】14:00～16:00

演題：「Life with Reading
-読書の秘訣カード-」の活用法

講師：青山学院大学
准教授 庭井 史絵 様
(元慶應義塾普通部 司書教諭)

【図書館部会総会】16:20～16:30

講演や議案等については、『図書館部報』をご覧ください。

視 聴 覚 部 会

1 視聴覚部会総会

期 日 11月27日(水)

議 題

- (1) 令和5年度事業総括
- (2) 令和5年度決算報告
- (3) 令和6年度事業計画
- (4) 令和6年度予算及び中間報告

2 指導者研修の実施

- (1) TeNY テレビ新潟の見学・講習

期 日 11月27日(水)

参加者 8人

- (2) NHK校内放送技術者講座

現地講習、オンライン講習

期 日 12月26日(木)～27日(金)

参加者 現地参加1人、オンライン参加8人

※当部会はNHK校内放送指導者講座への参加を推奨しています。読みや番組の指導方法や審査技術を習得することができ、修了時には、HNK杯全国高校放送コンテストの審査員として認証する「審査員証」が交付されます。また、参加者には、NHK新潟放送局からの補助金による研修補助制度も有り、参加しやすいものになっています。まだ、受講経験の無い会員の皆様にぜひご参加いただきたいと思ひます。

3 コンテストの主催及び共催

放送コンテスト県内大会の主催および高文連放送専門部との共催を行い、大会の審査・運営を通して指導技術の向上を図っています。

また、日程・大会結果は、本部会刊行誌「視聴覚教育研究」に掲載します。

- (1) 新潟県高等学校放送コンテスト(主催)

6月11日(火) 参加者19人

- (2) QK杯新潟県校内放送コンクール(共催)

11月10日(日) 参加者17人

※以上参加者数は事業参加教職員数

4 刊行物

名 称 視聴覚教育研究 第62号

発行日 令和6年度末

部 数 40冊

内 容 実践報告

コンテスト結果と事業報告

視聴覚部会規約

高等学校教育研究会規約

その他

定 通 部 会

I 新潟県高等学校定時制通信制教育総合 研究会

期 日 令和6年7月29日（月）
当番校 県立西新発田高等学校
会 場 ホテルイタリア軒
主 題 「未来に向かって生徒の可能性を
拓く定時制・通信制教育の推進」

1 講演

演題「高等学校と児童相談所の連携について」

講師 新発田児童相談所長

講師 森本 成彦 様

2 令和5年度県外視察事業報告

県立荒川高等学校

3 研究発表

①進路指導 県立長岡明德高等学校

②特別支援教育 県立十日町高等学校

4 指導助言

高等学校教育課指導主事 本間 いずみ様

II 役員会総会・理事会

<第1回>

期 日 令和6年5月14日（火）

形 式 Web会議ツール「Zoom」を活用し
たオンライン開催

議 事 令和6年度役員の委嘱について

報 告 令和5年度活動報告

令和5年度会計報告

協 議 令和6年度活動計画（案）

令和6年度会計予算（案）

高教研定通部会役割分担（案）

令和6年度定通総研実施計画と

当日の役割分担（案）

<第2回>

期 日 令和7年1月31日（金）

形 式 Web会議ツール「Zoom」を活用し
たオンライン開催

報 告 令和6年度事業報告

令和6年度決算中間報告

協 議 令和7年度事業計画（案）

令和7年度教育総合研究会（案）

次年度の予算確保に向けて

III 各校情報交換会

期 日 令和6年11月20日（水）

当番校 県立高田南城高等学校

会 場 県立高田南城高等学校

参加校 県内定通部加盟校11校

内 容 教務、生徒指導、進路指導等
について

IV 県外視察

期 日 令和6年7月18日（木）

19日（金）

視察校 千葉県立佐倉南高等学校

千葉県立東金高等学校

茨城県立茎崎高等学校

派遣校 県立長岡明德高等学校

県立堀之内高等学校

V 刊行物

実践集録 61号 デジタルデータにて発行

令和7年2月吉日 発刊

研究会・講習会等の開催	目的	国語授業の改善と指導力の向上		
	期 日	令和6年7月25日(木)	令和6年11月22日(金)	令和7年1月30日(木)
	場 所	白根高等学校	県立生涯学習推進センター(ホール)	白根高等学校
	研究会名称	運営委員会	全県研究協議会	運営委員会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	今年度計画及び全県研究協議会の実施について	「新学習指導要領を踏まえた授業づくり～主体的・対話的で深い学びの実践を目指して～」 「小説と解釈の多様性について 太宰治『走れメロス』」	今年度活動の反省 次年度活動計画
	講 師 職 氏 名		新潟大学教育学部 教授・長沼 光彦	
	研究発表 テーマ・職・氏名		① 実践発表 「生徒の『対話的な学び』の実践を目指して～言語文化『土佐日記』における女性仮託をめぐる～」・燕中等教育学校教諭・阿部友紀 ② 指導講評 県立教育センター 指導主事・今井大輔	
参加者数	12名	53名	12名	
研修分野の分類	②	②③④	②	
研究調査	主要テーマ	特になし		
	調査の期日 場所・参加者数			
図書購入	図書名冊数	特になし		
刊行物出版 研究成果	名 称	『国語研究』第71集		
	主 な 内 容	各種研究研修報告等		
	冊 数	200冊		

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 国語部会 令和7年度事業計画（案）
部長 坂元 淳子

研究会・講習会等の開催	目的	国語授業の改善と指導力の向上		
	期 日	6月中旬	11月下旬	令和8年1月下旬
	場 所	未定	未定	未定
	研究会名称	運営委員会	全県研究協議会	運営委員会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	年度計画の検討 全県研究協議会 の実施計画	「学習指導要領を踏 まえた授業づくり ～国語科における 探究的な学びの実 践～」 講演テーマ未定	年度活動の反省 次年度活動計画
	講 師 職 氏 名		講師未定	
	研究発表 テーマ・職・氏名		発表者未定（1名） 指導主事講評 県立教育センター 指導主事	
参加者数	16名	約70名	16名	
研究分野の分類		②	①②③④⑤⑥	②
研究調査	主要テーマ	特になし		
	調査の期日 場所・参加者数			
図書購入	図書名数	特になし		
刊行研究成果版	名 称	『国語研究』第72集		
	主 な 内 容	研究協議会発表・講演内容、各種研究研修報告等		
	冊 数	200冊		

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研地理歴史・公民部会 令和6年度事業報告書

部長 早川 勝志

研究会・講習会等の開催	目的	地理歴史・公民科の新学習指導要領及び大学入学共通テストに関する研究を推進し、地理歴史・公民科教育の発展と充実をはかる。	
	期日	7月19日(金)	11月15日(金)
	場所	県立新潟高等学校	県立図書館ホール
	研究会名称	研究協議会	地理歴史研究会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「大学から見た高校新学習指導要領・大学入学共通テスト」	「『総合』から『探究』へ—地理歴史科の取組み」
	講師職氏名	新潟大学人文学部 准教授 中村 元 様	—
	研究発表 テーマ・職・氏名	「中学校から見た高校新学習指導要領・大学入学共通テスト」 小田 和也 教諭 (佐渡市立佐和田中学校)	「地理の取組」 長岡 大 教諭(燕中等教育学校) 「歴史の取組」 中村 崇志 教諭(長岡大手高校)
	参加者数	30	24
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に	④①②③	④①②③	
研究調査	主要テーマ	—	
	調査の期日 場所・参加者数	—	
購入書	図書名 冊数	—	
刊 研究 行 成果 物 出版	名称	『地理歴史・公民研究』第63集 (令和7年3月末日刊行予定)	
	主な内容	【研究会報告】 研究協議会「発表要旨・講演要旨・所感」(万代高校 加藤直樹、長岡大手高校 中村崇志)、地理歴史研究会 【実践報告】 「『リノベーションに取り組む新潟市秋葉区の「まちづくり」の研究』の指導報告」(加茂暁星高校 関根正人) 【地歴公民の広場】 「通信制の制度と地歴・公民科教育」(高田南城高校 香西康一) 【大学入学共通テストに向けた取組と振り返り】 「歴史」(新発田南高校 江川慎也)、「地理」(新潟高校 佐藤大介)、「公民」(新津高校 山本学 小林真也) 【部会細則及び研究紀要投稿規定】 【部会通信】	
	冊数	260冊	

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 地理歴史・公民部会 令和7年度事業計画（案）

部長 早川 勝志

研究会・講習会等の開催	目的	地理歴史・公民科の学習指導要領及び大学入学共通テストに関する研究を推進し、地理歴史・公民科教育の発展充実をはかる。		
	期 日	7月4日（金）	8月4日（月）	11月（予定）
	場 所	県立新潟高校	県立新発田高校	新潟市立万代高校
	研究会名称	研究協議会	地理研究会	公民研究会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「新学習指導要領における法教育の実践について」（仮）	「地理院地図を授業でどう活用するか～基礎から応用まで～」	「高等学校公民科の各科目におけるコンピテンシーの育成について」（仮）
	講師職氏名	埼玉大学教育学部 准教授 小貫 篤 様	（国土地理院の講師）	—
	研究発表 テーマ・職・氏名	（県内高校教諭）	—	（県内高校教諭）
	参加者数	40	20	30
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に	④①②③	⑦②④	③④	
調 査 研 究	主 要 テ ー マ			
	調 査 の 期 日 場 所 ・ 参 加 者 数			
購 入 書	図 書 名 冊 数			
刊 行 物 成 果 出 版	名 称	『地理歴史・公民研究』第64集 （令和8年3月末日刊行予定）		
	主 内 容	「研究論文・実践報告」「私の教材紹介」「地歴公民の広場」 「大学入学共通テストに向けた取組と振り返り」		
	冊 数	260冊		

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

研究会・講習会等の開催	目的	学力の向上を目指した数学教育の研究			
	期 日	7月4日(木)	11月1日(金)	11月または12月	
	場 所	上越地区 (柏崎市文化会館アルフォーレ)	下越地区 (新潟市秋葉区文化会館 他)	中越地区	
	研究会名称	数学教育研究会	全県研究協議会 兼北陸 四県数学教育研究大会	地区研究協議会 ※北陸四県開催のため中止	
	研究会テーマ	高等学校における数学教育の諸問題について	数学的な見方・考え方を働かせて、数学的活動を通して、探究的な学びを深め、数学を活用する態度を育む数学教育		
	講演	テーマ	「漸近的統計推測に向けて～大数の法則と中心極限定理～」	「その学び、大人はそれで学びが好きになりましたか?～子どもの目線に戻って日々の授業づくりを問い直す～」	
		講師 職・氏名	新潟大学理学部理学科 数学プログラム 准教授 蛭川 潤一 様	「授業・人」塾代表 元筑波大学附属小学校副校長 田中 博史 様	
	研究発表	テーマ	「令和6年度新潟大学入試問題分析」	(数学ⅠA分野) (数学ⅡBⅢC分野) (大学入試分野)	
		発表者 職・氏名	県立柏崎高等学校 丸山 和則 教諭	津南中等 水谷 華 教諭 白根高校 長谷川拓也教諭 柏崎高校 丸山和則教諭	
	参加者数	67名	77名		
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		①, ②,	①, ②, ③, ④		
研究調査	主要テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・数学力向上のための意欲を引き出す指導について ・数学の指導におけるICTの活用及び観点別評価について 			
	調査の期日 場所・参加者数	各県内高等学校			
購図書	図書名 冊数	なし			
刊行物出版	名 称	「数学教育研究集録」第63号			
	主 な 内 容	会員の実践研究, 研究大会報告及び講演内容			
	冊 数	250冊			

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研 数学部会 令和7年度事業計画（案）

部長 小林 英明

研究会・講習会等の開催	目的	学力の向上を目指した数学教育の研究			
	期日	7月	10月または11月	11月または12月	
	場所	下越地区	中越地区	上越地区	
	研究会名称	数学教育研究会	全県研究協議会	地区研究協議会 ※日本数学教育学会全国大会が北陸開催のため中止	
	研究会テーマ	高等学校における数学教育の諸問題について	高等学校における数学教育の諸問題について		
	講演	テーマ	未定	未定	
		講師職・氏名	新潟大学理学部教授等	文部科学省教科調査官	
	研究発表	テーマ	未定	未定	
		発表者職・氏名	令和6年度北陸四県数学教育研究大会発表者	令和7年度日本数学教育学会全国大会発表者	
	参加者数	80名（予定）	80名（予定）		
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	①, ②, ③	①, ②, ③			
研究調査	主要テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・数学力向上のための意欲を引き出す指導について ・数学の指導におけるICTの活用及び観点別評価について 			
	調査の期日 場所・参加者数	各県内高等学校			
購入図書	図書名数 冊数	未定			
研究物出版	名称	「数学教育研究集録」第64号			
	主内容	会員の実践研究，研究大会報告及び講演内容			
	冊数	250冊			

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

研究会・講習会等の開催	目的	理科教育の研究・発展に資する			
	期日	7月22日 (月)	2月3日 (月)	10月28日(月)	11月8日(金)
	場所	Web会議	Web会議	長岡大手高等学校 済美会館	長岡大手高等学校 済美会館
	研究会名称	第1回 役員会	第2回 役員会	化学教育研究会	地学教育研究会
	研究会テーマ 「講演テーマ」			「化学史から化学教育の 疑問に答える 『日本版 Ask the Historiam 』 プロジェクト」	「2024年能登半島地 震の課題と今後の県 内の地震防災」
	講師職氏名			東京大学理学部化学科 分析化学研究室 助教 遠藤 瑞己	新潟大学 災害・復興科学研究 所 教授 卜部厚志
	研究発表 テーマ・職・氏名	R5事業報告 決算報告 R6事業計画 予算案 科目別 打ち合わせ	R6事業報告 中間決算報告 R7事業計画 予算案 科目別 打ち合わせ	「観点別評価と学ぶ力の 育成について」 新潟市立万代高等学校 中川 有香 「リン酸(食品添加物)の 中和滴定 ～ICT機器を用いた実 験指導について～」 新潟第一高等学校 長谷川 裕也	
	参加者数	19名	28名	15名	9名
研修分野の分類 下記①～③から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に			①②③	①②③	

研究会・講習会等の開催	目的	理科教育の研究・発展に資する	
	期日	11月13日(水)	11月19日(火)
	場所	国際情報高等学校	北越高等学校 大会議室
	研究会名称	物理教育研究会	生物教育研究会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「圧電デバイス・超音波デバイスの基礎と応用」	『つながる』ことで生物教育はより一層ワクワクしたものになる
	講師職氏名	長岡工業高等専門学校電子制御工学科 教授 梅田 幹雄	東京都立国分寺高等学校 講師 市石 博
	研究発表 テーマ・職・氏名	「オシロスコープアプリの音単元への活用について」 五泉高等学校 桐生翔平 「Arduino を利用したインターフェースの開発と活用」 国際情報高等学校 小林 力 「再帰反射シートを用いた“空中ディスプレイ”の紹介」 国際情報高等学 遠藤 浩 「授業中にできる簡単な演示実験4種(感電、跳ね返り、大型分光器、電磁ブレーキ)」 十日町総合高等学校 高橋 利勝	研究発表 「検証型の仮説設定の能力を養う深い学び」 新津高等学校 奈良 俊宏 視察報告 日本生物教育会 78 回全国大会 東京大会 村上特別支援学校 市川 克行
	参加者数	16名	27名
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	①②③⑦	①②③⑤	
研究調査	主要テーマ	研究会の推進	
	調査の期日 場所・参加者数	日本生物教育研究会第78回全国大会東京大会 視察 令和6年8月5日(月)～9日(金) 東京富士大学 視察者 市川克行、浅沼 剛 2名	
購入図書	図書名 冊数		
刊行研究成果出版	名称	理科研究集録第64号	
	主な内容	研究報告・講演要旨	
	冊数	200冊	

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

研究会・講習会等の開催	目的	理科教育の研究・発展に資する			
	期 日	6～7月	8月9日		9～11月
	場 所	Web会議	開志専門職大学 紫竹山キャンパス		未定
	研究会名称	第1回役員会	日本生物教育会 第79回全国大会新潟大会		物理研究会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	活動計画 予算案	地域の自然から学ぶ 生物教育		未定
	講師職氏名		北海道大学農学研究員基礎研 究部門生物資源化学分野 准教授 古澤 和徳 氏		
	研究発表 テーマ・職・氏名	\			
	参加者数				
	期 日	9～11月	1月下旬 までに		
	場 所	未定	Web会議		
	研究会名称	化学研究会	第2回役員会		
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未定	各種報告 活動計画		
	講師職氏名				
	研究発表 テーマ・職・氏名				
	参加者数				
調 査 研 究	主 要 テ ー マ	研究会の推進			
	調査の期日場所・参加者数	未定			
図 書	図 書 名 ・ 冊 数				
刊 行 物 研 究 成 果	名 称 ・ 内 容 ・ 冊 数	理科研究集録 第65号 200冊			

高教研 芸術部会 令和6年度 事業報告書

部長 小堺 さとみ

研究会・講習会等の開催	目的	会員相互の研修を深め芸術教育の向上をはかる				
	教科	全体	音楽	美術		書道
	期日	6月28日(金)	11月7日(木)	8月20日(火)	8月22日(木) 11月29日(金)	11月19日(火)
	場所	高田城址公園 オーレンプラザ	新潟市立鳥屋野中学校	星陵会館 (東京)	見附高等学校	新潟ふれ愛プラザ 新潟向陽高等学校 新潟明訓高等学校 他
	研究会名称	芸術部会総会 研究協議会	音楽科研修会 (新潟市中学校教育 研究協議会音楽部研修会 への合同参加)	美術科 研修会	美術工芸科 研究協議会	書道科 研修会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	・総会 ・研究協議 ・講演会 ・分科会	「感性を働かせて、 仲間と共に音楽に 関わり続ける生徒の 育成～つくる喜び、 工夫する楽しみを 求める生徒の育成～」	第61回 全高美工研2024 本部大会 「美工研の歩み ～持続可能な研究会 のあり方～」	2025新潟大会 実行委員会	研修①授業参観 ICTを活用した 遠隔授業について 授業者 県立新潟向陽高等学校 佐藤雄司 教諭
	講師職氏名	東良 雅人 (京都市総合教育センター 指導室長・元文部科学省 初等中等視学官)				
	研究発表 テーマ・職・氏名	【音楽】 ・授業における邦楽指導 ～箏奏者 高倉七虹様 をお迎えして～ 【美術】 「源流と実り」 分科会テーマに 沿った実践発表 (2025新潟大会 プレ発表) 【書道】 ・書道科研修会(遠隔 授業見学)について ・R8全高書県富山大会 について	・公開授業 「Q100をつくろう」 (第2学年) 新潟市立鳥屋野中学校 今井 優太 教諭 ・協議会 (グループ協議) ・研修会「音楽科の 授業づくり」 新潟大学大学院 教育実践学研究所 特任教授 高橋 恒彦 様	・都道府県代表者 会議 ・研究協議 ・閉会行事 新潟大会PR ・情報交換会	・本部大会報告 ・各部の計画 進捗状況確認 ・大会予算、 協賛について 他	研修②鑑賞会 新潟明訓高等学校 百周年記念会館 (新井満コレクション、 富岡惣一郎、横尾忠則、 安藤忠雄 等鑑賞) 研修③見学 北方文化博物館 新潟分館見学鑑賞 会津八一終焉の地 歌碑など見学
参加者数	30名	7名	7名	15名	11名	
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを 先頭	①、②、③、④	①、②、④、⑥	①、②、⑥、⑦		①、②、③、 ④、⑥、⑦	
研究調査	主要テーマ	「新しい芸術教育の取組について」 「持続可能な研究会のあり方について」				
	調査の期日 場所・参加者数	「新しい芸術教育の取組について」 各高等学校において日常的なテーマとして研究し、各科研修会にて情報共有する(場所・参加者数は上記を予定) 「持続可能な研究会のあり方について」 令和6年6月28日(金)、高田城址公園オーレンプラザにおいて美術・工芸科の研修会(2025新潟大会プレ)で発表				
図書購入	図書 冊数	なし				
研究 出版物 出版	名称	報告をまとめ、HPに掲載する				
	主な内容	実践報告等				
	冊数					

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 芸術部会 令和7年度 事業計画 (案)

部長 小堺 さとみ

研究会・講習会等の開催	目的	会員相互の研修を深め芸術教育の向上をはかる				
	教科	全体	音楽	美術		書道
	期日	6月中旬	11月下旬	5月中旬	8月21日(木) 8月22日(金)	11月
	場所	新潟高等学校	未定	見附高等学校	高田城址公園 オーレンプラザ	帝京長岡高等学校 又は アトリウム長岡
	研究会名称	芸術部会総会 研究協議会	音楽科 研修会	美術工芸科 研究協議会	美術科 研修会	書道科 研修会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	・総会 ・研究協議 ・分科会	パイプオルガンの 仕組みや魅力を 学ぶ (仮)	2025新潟大会 実行委員会	第62回全高美工研 2025新潟大会 萌えよ！新潟 「源流、そして実りへ ～美術、工芸教育の 深化と広がり」 記念講演 テーマ未定	第51回全高書研 2026富山大会 テーマ「書道で ウェルビーイング」 授業研究プレ発表
	講師職氏名		未定		長沢 明 氏 (東北芸術工科大学教授)	
	研究発表 テーマ・職・氏名	【音楽】 各校の学習指導計画 について 【美術】 (2025新潟大会)に ついて 【書道】 ・2026富山大会に ついて ・芸術全国研修会 報告について	未定	・各部より	・第1分科会 「源流」 ～時代に左右され ない価値～ 口頭発表3名 ・第2分科会 「実りへ」 ～激変する社会の 中での美術教育～ 口頭発表4名	協議会・検討会 第51回全高書研 2026富山大会 分科会テーマ 「書の伝統・ 文化に親しむ 態度の育成を 目指して」 帝京長岡高校 佐藤栄理 教諭 ・「地域の書」 鑑賞レポートに ついて
参加者数	49名	14名	17名		18名	
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを 先頭に	①、②、③、④	①、②、⑤、⑦	①、②、③、④、⑦		①、②、⑤、⑦	
研究調査	主要テーマ	「新しい芸術教育の取組について」 「持続可能な研究会のあり方について」				
	調査の期日 場所・参加者数	「新しい芸術教育の取組について」 各高等学校において日常的なテーマとして研究し、各科研修会にて情報共有する(場所・参加者数は上記を予定) 「持続可能な研究会のあり方について」 令和7年8月21日(木)22日(金)、高田城址公園オーレンプラザにおいて美術・工芸科(2025新潟大会)で発表				
図書購入	図書冊数	なし				
刊行物出版	名称	報告をまとめ、HPに掲載する				
	主な内容	実践報告等				
	冊数					

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

研究会・講習会等の開催	目的	英語教育の推進と向上	
	期日	8月8日（木）	11月29日（金）
	場所	オンライン、対面併用のハイブリッド開催	オンライン、対面併用のハイブリッド開催
	研究会名称	夏季研修会	全県研究大会
	研究会テーマ「講演テーマ」	高等学校における動機付けの重要性について	改めて考える「求められる生徒の学び、育てたい生徒の力」～同僚とともに取り組む生徒の主体的な学びを促す授業づくり～
	講師職氏名	新潟県立大学国際地域学部・教授 茅野潤一郎	宇都宮大学大学院教育学研究科専門職学位課程・助教・ 田村岳充
	研究発表テーマ・職・氏名	なし（講演メインだったため）	「教室でみんなで学ぶダイナミクス」「力を伸ばす個別指導」・講師・前田由紀恵
	参加者数	31名	116名
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	①②④		①②③⑥
研究調査	主要テーマ	なし	
	調査の期日 場所・参加者数	なし	
購入図書	図書名数	なし	
刊行物出版 研究成果	名称	「英語部会誌」第69号	
	主内容	研修会報告、実践報告など	
	冊数	300冊	

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 英語部会 令和7年度事業計画（案）

部長 石積 希

研究会・講習会等の開催	目的	英語教育の推進と向上		
	期 日	8 月	1 1 月	未定
	場 所	未定	未定	未定
	研 究 会 名 称	夏季研修会	全県研究大会	会員有志による研究会
	研 究 会 テ ー マ 「講演テーマ」	英語教育の推進と向上	英語教育の推進と向上	英語教育の推進と向上
	講 師 職 氏 名	未定	未定	未定
	研 究 発 表 テーマ・職・氏名	研究発表：県内英語科教諭	・講演 ・研究発表：県内英語科教諭等	研究授業、実践発表等
	参 加 者 数	5 0 人	1 0 0 人	1 0 0 人
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	①～⑦	①～⑦	①～⑦	
研究調査	主 要 テ ー マ	新学習指導要領の指導と評価、ICT活用、授業改善		
	調 査 の 期 日 場 所 ・ 参 加 者 数	未定		
図書購入	図 書 名 数	未定		
刊 行 物 出 版	名 称	「英語部会誌」70号		
	主 内 容	研修会報告、実践報告、寄稿等		
	冊 数	300部		

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 農業 部会 令和 6 年度事業報告書

部長 村山 英司

研究会・講習会等の開催	目的	農業教育の充実と発展	
	期日	令和6年8月16日(金)	令和6年11月28日(木)
	場所	新潟市万代市民会館	加茂農林高校会議室
	研究会名称	農業教育研究大会 (新発田農業高等学校)	課題研究会 (加茂農林高等学校)
	研究会テーマ 「講演テーマ」	生徒の夢を創造し実現する農業教育の推進 演題「曾我農園のブランディング手法について」	農業DXに関する先進的な取り組みと農業教育への導入
	講師職氏名	株式会社 曾我農園 代表取締役社長 曾我新一	金沢学院大学情報工学部 教授 桑野 裕昭
	研究発表 テーマ・職・氏名	1 「森林教育は 実学からひとづくり」 新潟県立高田農業高等学校 教諭 原 正博 2 「昨年度の基本問題検討委員会について(報告)」 県立加茂農林高等学校 教諭 近藤 和之	「マイスター・ハイスクール」 の取り組み 新潟県立高田農業高等学校 教諭 池亀 元喜
参加者数	50名	25名	
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	①②③	②③	
研究調査	主要テーマ		
	調査の期日 場所・参加者数		
購入書	図書名数		
刊行研究成果出版	名称	「新潟県農業教育研究会誌」第59号(長岡農業高等学校)	
	主内容	研究論文・報告文・トピックス・その他	
	冊数	140冊	

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 農業 部会 令和 7 年度事業計画（案）

部長 村山 英司

研究会・講習会等の開催	目的	農業教育の充実と発展	
	期 日	令和7年8月 日()	令和7年11月下旬（予定）
	場 所	未定	加茂農林高校会議室（予定）
	研究会名称	農業教育研究大会 (高等学校)	課題研究会 (加茂農林高等学校)
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未定	未定
	講師職氏名	未定	未定
	研究発表 テーマ・職・氏名	未定	未定
	参加者数	未定	未定
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	①②③	②③	
研究調査	主要テーマ		
	調査の期日 場所・参加者数		
図書購入	図書名数		
刊 行 物 成 果 出 版	名 称	「新潟県農業教育研究会誌」第60号（長岡農業高等学校）	
	主 内 容	研究論文・報告文・トピックス・その他	
	冊 数	140冊	

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 工業部会 令和 6 年度事業報告書

(見学会・講習会の部)

部長 諸橋 孝二

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期日	7月2日(火)	10月2日(水)	10月2日(水)	11月22日(金)
	場所	(株)テック・エンジニアリング(燕市)	新潟駅南口マンション建設現場	新潟工業高等学校	日本製鉄(株)東日本製鉄所直江津地区
	研究会名称	電気・電子見学会	建築見学会・講習会	土木講習会・意見交換会	機械・電子機械見学会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	施設・設備の見学	最新の免震タリーマンション工法について	1級土木施工管理受験について、入職後の定着率向上	工場内施設設備の見学
	講師職氏名	(株)テック・エンジニアリング 営業・技術 阿部真一様	(株)福田組 佐藤工事部長様 川上副部長様 他	新潟県建設業協会 青年部会 部会長 長岡支部 細川一彦様 他	労働・購買部労政 人事室主幹 室橋直之様
	研究発表 テーマ・職・氏名				
参加者数	9名	16名	19名	11名	
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	①⑤	①⑤	①②	①⑤	
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図冊名数				
刊 研 行 究 物 成 出 果 版	名 称	新潟県工業教育紀要第61号			
	主 内 容	工業教育(講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など)の令和6年度研究収録			
	冊 数	200冊			

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

(見学会・講習会の部)

部長 諸橋 孝二

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表
	期日	11月29日(金)
	場所	㈱柏崎エコクリエイティブ ㈱チャレンジトゥエンティワン ダスキン新潟工場
	研究会名称	工業化学見学会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	工場内施設設備の見学
	講師職氏名	㈱柏崎エコクリエイティブ ㈱チャレンジトゥエンティワン ダスキン新潟工場
	研究発表 テーマ・職・氏名	
	参加者数	10名
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	①⑤	
研究調査	主要テーマ	
	調査の期日 場所・参加者数	
図書購入	図書冊数	
刊 研 行 究 物 成 出 果 版	名 称	新潟県工業教育紀要第61号
	主 内 容	工業教育（講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など）の令和6年度研究収録
	冊 数	200冊

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 工業部会 令和 6 年度事業報告書

(研究会の部)

部長 諸橋 孝二

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期日	7月2日(火)	10月2日(金)	10月2日(金)	11月22日(金)
	場所	(株)テック・エンジニアリング(燕市)	新潟工業高等学校	新潟工業高等学校	日本製鉄(株)東日本製鉄所直江津地区
	研究会名称	電気・電子研究会	建築研究会	土木研究会	機械・電子機械研究会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	製造業におけるIoT導入メリットと実践例などについて	担い手不足の現状 各校との連携 生徒の技能職への興味関心 他	各校進路状況 建設業協会 入職状況説明	「当社の動向について」
	講師職氏名	(株)テック・エンジニアリング 代表取締役 阿部真 様 他			総務部 直江津総務室室長 櫻井和洋 様
	研究発表 テーマ・職・氏名				
参加者数	9名	16名	19名	11名	
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	①②	①②	①②③	①	
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図書名数				
刊行研究成果出版	名称	新潟県工業教育紀要第61号			
	主内容	工業教育(講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など)の令和6年度研究収録			
	冊数	200冊			

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

(研究会の部)

部長 諸橋 孝二

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表	
	期日	11月29日(金)	1月14日(火)
	場所	アトリウム長岡	長岡市さいわいプラザ
	研究会名称	工業化学研究会	ロボット技術研究協議会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	日化研、北信越工化研、ものづくりコンテスト報告など	各ロボット競技大会報告、ロボット機構紹介
	講師職氏名		長岡工業高等専門学校ロボティクス部長 長岡技術科学大学
	研究発表 テーマ・職・氏名		
	参加者数	10名	78名
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	①②	①②③⑦	
研究調査	主要テーマ		
	調査の期日 場所・参加者数		
図書購入	図書名数		
刊行研究成果 物出版	名称	新潟県工業教育紀要第61号	
	主内容	工業教育（講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など）の令和6年度研究収録	
	冊数	200冊	

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 工業部会 令和 7 年度事業計画（案）

（見学会・講習会の部）

部長 諸橋 孝二

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期日	未定	7月上旬	10月上旬	未定
	場所	柏崎工業 （当番校）	長岡工業 （当番校）	新潟県央工業 （当番校）	新潟県央工業 （当番校）
	研究会名称	機械・電子機械 見学会	電気・電子 見学会	建築見学会	土木見学会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「 」	電気関連 企業見学 予定 「 」	「 」	「 」
	講師職氏名				
	研究発表 テーマ・職・氏名				
	参加者数				
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	①⑤	①⑤	①⑤	①⑤	
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図書名数				
刊行研究成果 出版物	名称	新潟県工業教育紀要第62号			
	主内容	工業教育（講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など）の令和7年度研究収録			
	冊数	200冊			

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 工業部会 令和 7 年度事業計画（案）

（見学会・講習会の部）

部長 諸橋 孝二

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期日	未定			
	場所	新潟工業 (当番校)			
	研究会名称	工業化学 見学会			
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「 」			
	講師職氏名				
	研究発表 テーマ・職・氏名				
参加者数					
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	①⑤				
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図書名数				
刊行研究成果出版	名称	新潟県工業教育紀要第62号			
	主内容	工業教育（講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など）の令和7年度研究収録			
	冊数	200冊			

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 工業部会 令和 7 年度事業計画（案）

（研究会の部）

部長 諸橋 孝二

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期日	未定	7月上旬	10月上旬	未定
	場所	柏崎工業	長岡工業	新潟県央工業	新潟県央工業
	研究会名称	機械・電子機械研究会	電気・電子研究会	建築研究会	土木研究会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「 」	「 」	「 」	「 」
	講師職氏名				
	研究発表 テーマ・職・氏名				
	参加者数				
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	①③⑦	①③⑦	①③⑦	①③⑦	
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図書冊数				
刊行研究成果出版	名称	新潟県工業教育紀要第62号			
	主内容	工業教育（講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など）の令和7年度研究収録			
	冊数	200冊			

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 工業部会 令和 7 年度事業計画（案）

（研究会の部）

部長 諸橋 孝二

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期 日	未 定	1月中旬		
	場 所	新潟工業	長岡工業高校		
	研 究 会 名 称	工業化学 研究会	ロボット技術 研究協議会		
	研 究 会 テ ー マ 「講演テーマ」		各ロボット競技 大会報告、 ロボット機構紹介		
	講 師 職 氏 名				
	研 究 発 表 テーマ・職・氏名				
	参 加 者 数				
研 修 分 野 の 分 類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	①③⑦	①③⑦			
研究調査	主 要 テ ー マ				
	調 査 の 期 日 場 所 ・ 参 加 者 数				
図書購入	図 書 名 数				
刊 行 物 成 果 出 版	名 称	新潟県工業教育紀要第62号			
	主 内 容	工業教育（講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など）の令和7年度研究収録			
	冊 数	200冊			

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

研究会・講習会等の開催	目的	経済社会の発展を担う商業教育	
	期日	令和6年11月20日(水)	
	場所	新潟産業大学 講堂	
	研究会名称	高教研商業部会 ビジネス分野研究会	
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「柏崎市の観光について」	「起業教育と商品開発 ～その目的と課題～」
	講師職氏名	一般社団法人柏崎観光協会 事務局長 飛田 成雅 様	新潟産業大学 経済学部教授 大石 友子 様
	研究発表 テーマ・職・氏名	なし	
	参加者数	9校 15名	
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に	①、②		
研究調査	主要テーマ	なし	
	調査の期日 場所・参加者数	なし	
図書購入	図書名 冊数	<ul style="list-style-type: none"> ・観光で繋ぐ！みんなが主役！「観光地域づくり」の教科書 1冊 ・図解でわかる14歳から学ぶこれからの観光 1冊 ・入門観光学 改訂版 1冊 	
刊 研究 行 成果 物 出版	名称	新潟県商業教育第59号	
	主な 内容	研究発表、実践報告、大会報告、研究会報告	
	冊数	90冊	

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研 商業部会 令和7年度事業計画（案）

部長 小畑 智嗣

研究会・講習会等の開催	目的	経済社会の発展を担う商業教育
	期日	11月中旬
	場所	県立高田商業高等学校
	研究会名称	未定
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未定
	講師職氏名	未定
	研究発表 テーマ・職・氏名	未定
参加者数	約20名	
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	未定	
研究調査	主要テーマ	なし
	調査の期日 場所・参加者数	
図書購入	図書名数	未定
刊行研究成果出版	名称	新潟県商業教育 第60号
	主内容	1. 研究論文 2. 実務競技大会報告 3. 専門委員会報告 4. 各種研究会報告 5. 検定試験結果報告と分析 6. その他
	冊数	約100冊

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

部長 中田 匠

研究会・講習会等の開催	目的	本県の高等学校で水産・海洋教育に携わる教職員が集い、海洋・水産教育の諸問題について研究協議し、水産教育の充実と発展を目指す。	
	期日	6月20日(木)	1月7日(火)
	場所	糸魚川市	糸魚川市
	研究会名称	新潟県高等学校教育研究会・水産部会	マイスターハイスクール職員研修会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	水産・海洋教育の充実	探究学習の充実
	講師職氏名		
	研究発表 テーマ・職・氏名	新しい時代をリードする創造的な水産・海洋教育はどのようにあれば良 いか 教諭 金子義昂 他3名	水産・海洋高校における探究学習の 充実について協議した。
	参加者数	約30名	約20名
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に	① ② ③ ④	② ④ ⑦	
研究調査	主要テーマ	なし	
	調査の期日 場所・参加者数	なし	
図書購入	図書名 冊数	小型船舶操縦士学科教本(1)・新訂測量入門 2級小型船舶操縦士学科試験問題集・絵とき土木施工 できる AutoCAD 計6冊	
刊 研究 行 成果 物 出 版 果	名称	令和6年度 新潟県水産教育研究会	
	主な内容	成果報告書(電子データで作成・配布)	
	冊数	0冊	

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研 水産部会 令和7年度事業計画（案）

部長 中田 匠

研究会・講習会等の開催	目的	本県の高等学校で水産・海洋教育に携わる教職員が集い、海洋・水産教育の諸問題について研究協議し、水産教育の充実と発展を目指す。	
	期日	11月28日（金）	1月
	場所	糸魚川市	糸魚川市
	研究会名称	新潟県高等学校教育研究会・水産部会	マイスターハイスクール職員研修会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	水産・海洋教育の充実	探究学習の充実
	講師職氏名		
	研究発表 テーマ・職・氏名	新しい時代をリードする創造的な水産・海洋教育はどのようにあれば良いか	水産・海洋高校における探究学習の充実
	参加者数	約30名	約20名
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に	① ② ③ ④	② ④ ⑦	
研究調査	主要テーマ	未定	
	調査の期日 場所・参加者数	未定	
図書購入	図書名 冊数	未定	
刊 行 物 出 版 研 究 成 果	名称	令和7年度 新潟県水産教育研究会	
	主な内容	成果報告書（電子データで作成・配布）	
	冊数	0冊	

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

研究会・講習会等の開催	目的	家庭科教育の充実と発展
	期日	8月5日(月)
	場所	蔵春閣(新発田市)
	研究会名称	全県講習会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	1 講演 「未来の食をKOMEKOから」 2 講演 「住みよいまち日本一 健康田園文化都市・しばた」を目指して ～4つの視点による新発田市のまちづくり～
	講師職氏名	1 講演 新潟製粉株式会社 代表取締役 藤井 義文 様 管理部長 錦織 雅子 様 2 講演 新発田市みらい創造課企画政策係 係長 齋藤 直樹 様
研究発表 テーマ・職・氏名		
参加者数	24人	
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	②	
研究調査	主要テーマ	
	調査の期日 場所・参加者数	
購図書	図書名 冊数	
刊行研究成果 出版	名称	家庭科研究第60号
	主内容	講習会・研究協議・会員の研究など
	冊数	130冊

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研家庭科部会令和7年度事業計画（案）

部長 江川 真

研究会・講習会等の開催	目的	家庭科教育の充実と発展
	期日	8月4日（月）
	場所	中越地区（未定）
	研究会名称	全県講習会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未定
	講師職氏名	未定
	研究発表 テーマ・職・氏名	未定
	参加者数	30名
研究調査	主要テーマ	
	調査の期日 場所・参加者数	
購入図書	図書名数	
刊行研究成果 出版物 版	名称	家庭科研究第61号
	主内容	講習会・研究協議・会員の研究など
	冊数	130冊

高教研 保健体育部会 令和6年度事業報告書

部長 杵 鞭 義 孝

研究会・講習会等の開催	目的	保健体育科教員及び養護教員の研修	
	期 日	令和6年12月6日（金）	令和6年10月22日（火）
	場 所	新潟県健康づくり・スポーツ 医科学センター	新潟ユニゾンプラザ
	研究会名称	保健体育部会全県研修会	全県養護教諭研修会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	1 部活動の地域移行の現状について 他 2 障害者スポーツについて	現代的健康課題を抱える児童生徒への支援と養護教諭の役割 「保健室での生徒支援と心理学的アプローチ」
	講師職氏名	1 教育庁 保健体育課 指導主事 山田耕平 様 2 サムティーアセット株式会社 永田 務 様	新潟青陵大学 福祉心理学部 臨床心理学科 小林 智（こばやし たく） 様
	研究発表 テーマ・職・氏名	なし	なし
参加者数	24名	95名（ハイブリッド形式）	
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に	①②③	①②	
研究調査	主要テーマ	なし	
	調査の期日 場所・参加者数	なし	
図書購入	図書名数	なし	
研究 成果 の 出 版	名 称	研究集録 第60集	
	主 内 容	研究会、講演会の内容収録	
	冊 数	0部・・・HPに掲載	

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 保健体育部会 令和7年度事業計画

部長 杵鞭 義孝

研究会・講習会等の開催	目的	保健体育科教員及び養護教員の研修	
	期日	未定	未定
	場所	未定	未定
	研究会名称	未定	未定
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未定	未定
	講師職氏名	未定	未定
	研究発表 テーマ・職・氏名	未定	未定
	参加者数	約50名	約100名
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	①② (③)	①②	
研究調査	主要テーマ	なし	
	調査の期日 場所・参加者数	なし	
図書入	図書名数	なし	
刊行物の出版	名称	研究集録 第61集	
	主内容	研究会、講演会の内容収録	
	冊数	0部・・・HPに掲載	

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 情報部会 令和7年度事業計画（案）

部長 原口 央

研究会・講習会等の開催	目的	情報化教育の充実と発展		
	期 日	5～6月	7～8月	11月
	場 所	Web会議	未定	未定
	研究会名称	第1回 代議員会	情報教育 研究会	全県研究 協議会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	前年度活動報告、決算報告 当年度活動計画、予算案	未定	未定
	講師職氏名		未定	未定
	研究発表 テーマ・職・氏名		未定	未定
	参加者数			
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		未定	未定	
研究調査	主要テーマ	情報と情報技術を適切かつ効果的に活用するための資質・能力の育成		
	調査の期日 場所・参加者数	県内高等学校		
図書購入	図書 冊数	なし		
刊 行 物 成 果 出 版	名 称	「情報教育研究収録」		
	主 内 容	会員の実践研究、研究大会報告及び講演内容		
	冊 数	情報部会HP掲載予定		

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 情報部会 令和6年度事業報告書

部長 原口 央

研究会・講習会等の開催	目的	情報科教育の充実と発展	
	期日	8月26日(月)	9月26日(木)
	場所	新潟県立大学 (Web併用)	下越地区 (Web会議)
	研究会名称	生成AIの仕組みと活用事例 主催：新潟県立大学 後援：新潟県高等学校教育研究会他	情報教育研究会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	生成AIの仕組みと使い方、使用実 例と気をつけるべき点について 「生成AIの仕組みと活用事例」	情報教育の課題 「『人工知能入門』を通して考える情 報リテラシーの必要性」
	講師職氏名	NTT-ME サービスクリエイション部 亀井 雄介	新潟大学・教授 山崎 達也
	研究発表 テーマ・職・氏名		情報教育で育む 読解力 神奈川県立横浜国際高等学校・教諭 蒲田 高穂
	参加者数	若干名	26名
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	①, ②, ③	①, ②, ③	
研究調査	主要テーマ	情報と情報技術を適切かつ効果的に活用するための資質・能力の育成	
	調査の期日 場所・参加者数	県内高等学校	
図書購入	図書名 冊数	なし	
反 刊 行 物 出 研 究 成 果	名 称	「情報教育研究集録」	
	主 内 容	会員の実践研究, 研究大会報告及び講演内容	
	冊 数	情報部会HP掲載予定	

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

研究会・講習会等の開催	目的	生徒指導上の諸問題の把握と研鑽
	期日	令和6年11月12日(火)
	場所	県立巻高等学校
	研究会名称	全県研究協議会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「生徒の伸長と発達を支える生徒指導」 ～ 生徒一人一人の自己実現を目指して ～ 講演 「生徒指導提要と不登校支援」
	講師職氏名	広島大学大学院人間社会科学研究科 教授 栗原 慎二 様
	研究発表 テーマ・職・氏名	なし
参加者数	64名（オンラインでの参加者を含む）	
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に	①, ②, ⑦	
研究調査	主要テーマ	「うちの学校の不登校って？ － ワールドカフェ方式で三つの提案を作ってみよう 」
	調査の期日 場所・参加者数	参加者によるワールドカフェ方式の研修・研究協議 場所：県立巻高等学校等 25名
図書購入	図書冊数	なし
刊行物出版	名称	生徒指導部会誌 第57号
	主内容	研究内容・資料・部会活動報告
	冊数	330冊

① 専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

研究会・講習会等の開催	目的	生徒指導上の諸問題の把握と研鑽
	期日	令和7年11月上旬
	場所	未定
	研究会名称	全県研究協議会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「生徒の伸長と発達を支える生徒指導」 ～ 生徒一人一人の自己実現を目指して ～ 講演 未定
	講師職氏名	未定
	研究発表 テーマ・職・氏名	なし
参加者数	50名程度（オンラインでの参加者を含む）	
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に	①, ②, ⑦	
研究調査	主要テーマ	「不登校支援のあり方について」
	調査の期日 場所・参加者数	テーマ別に分かれての研究協議 場所：県立巻高等学校等 20名
図書購入	図書冊数	なし
刊行物出版 研究成果	名称	生徒指導部会誌 第58号
	主内容	研究内容・資料・部会活動報告
	冊数	330冊

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

研究会・講習会等の開催	目的	1 生徒の実態を踏まえての読書指導のあり方 2 情報化社会に対応した図書館運営のあり方
	期日	9月6日(金)
	場所	新潟ユニゾン プラザ
	研究会名称	総会・講演会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	総会・講演会
	講師職氏名	青山学院大学准教授 庭井 史絵様
	研究発表 テーマ・職・氏名	「『Life with Reading-読書の秘訣カード』-の活用法」・青山学院大学准教授)・庭井 史絵様
	参加者数	18名
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		①
研究調査	主要テーマ	講演に関する事前・事後アンケート
	調査の期日 場所・参加者数	総会・講演会において持参・協議
図書購入	図書名 冊数	『Life with Reading-読書の秘訣カード-』 13冊
刊 研究 行 成果 物 出版	名称	「図書館部報」第68号
	主な 内容	研究会・総会報告・研究会等参加報告、研究論文等
	冊数	180冊

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研 図書館 部会 令和7年度事業計画（案）

部長 川上 史人

研究会・講習会等の開催	目的	1 生徒の実態を踏まえての読書指導のあり方 2 情報化社会に対応した図書館運営のあり方
	期日	未定
	場所	新潟ユニゾンプラザ
	研究会名称	総会・講演会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未定
	講師職氏名	未定
	研究発表 テーマ・職・氏名	未定
	参加者数	未定
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		①
研究調査	主要テーマ	図書館運営に関する事前アンケート
	調査の期日 場所・参加者数	総会・講演会において持参・協議
購図書	図書冊数	未定
刊行物出版	名称	『図書館部報』第69号
	主内容	研究会・総会報告、研究会等参加報告、研究論文等
	冊数	180冊

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研視聴覚部会 令和7年度事業計画書（案）

部長 須藤 浩

研究会・講習会等の開催	目的	視聴覚に関わる諸活動を通して、教職員が、実践力を備えたメディアリテラシーを獲得することで、生徒の課題解決能力向上を促すための指導力を身につける。							
	期 日	4月26日	5月中旬	6月7日	8月18日 ～19日	11月9日	11月下旬	1月12日	3月15日
	場 所	長岡市 長岡大学 (予定)	新潟市 専門学校 (予定)	長岡市 長岡大学	長岡市 長岡温泉湯 元館	新潟市 新潟明訓 高等学校	新潟市内 民間放送局	長岡市 まちなかキ ャンパス長 岡	新潟市 新潟明訓 高等学校
	研究会 名 称	新潟・下越 地区、上越 中越地区初 心者講習会 (合同開催)	春の視聴 覚講習会	新潟県高校 放送コンテ スト主 催 事 業	夏期講習会 視聴覚部会 総会	Q K杯校内 放送コンク ール 共 催 事 業	視聴覚技術 研修会	放送技術者 冬期講習会	放送技術者 春期講習会 研修会
	研究会 テーマ 「講演 テーマ」	基礎的な 放送・視 聴覚技術 に関する 指導方法 の習得	タブレット 端末を活用 した動画編 集(予定)	コンテスト の評価 方法	校内放送 コンクール に向けた 読み番組 の実践的 指導方法	コンテスト の評価 方法	番組制作 報道技術 に関する 現場見学	北信越大会 に向けた 読み番組 の実践的 指導方法	N H K 杯 に向けた 読み番組 の実践的 指導方法
	講師職 氏 名	高文連専門 部役員	未定	NHK専門職 ディレクター アナウンサー	高文連専門 部役員	NHK専門職 ディレクター アナウンサー	民間放送局 ディレクター アナウンサー	高文連専門 部役員	高文連専門 部役員
	研究発 表テーマ・ 職・氏名								
	参加 者数	20人	15人	20人	15人	20人	10人	10人	15人
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複 数選択可。主となるテー マを先頭に	②指導法 ⑦実習・講 習	②指導法 ⑦実習・講 習	①専門分野	②指導法 ③実習・ 講習	①専門分野	②指導法 ⑤見学会 ⑦講習	②指導法 ③実習・講 習	②指導法 ③実習・講 習	
研究 調査	主 要 テーマ	第48回校内放送指導者講座							
	調 査 の 期 日 場 所・参 加者数	12月下旬 東京都千代田放送会館 現地2人、オンライン5人程度							
図 書	図 書 名 冊 数								
刊 行 物 成 果 出 版	名 称	「視聴覚教育研究第63号」							
	主 内 容	実践研究報告 令和7年度のコンテスト結果と事業報告 視聴覚部会規約・高等学校教育研究会規約							
	冊 数	40冊							

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研視聴覚部会 令和6年度事業報告書

部長 須藤 浩

研究会・講習会等の開催	目的	視聴覚に関わる諸活動を通して、教職員が、実践力を備えたメディアリテラシーを獲得することで、生徒の課題解決能力向上を促すための指導力を身につける。							
	期 日	4月29日	5月15日	6月11日	8月16日 ～17日	11月10日	11月27日	1月13日	3月16日
	場 所	長岡市 中越高等学校	長岡市 巻総合 高等学校	長岡市 長岡リック ホール	長岡市 長岡温泉 湯元館	新潟市 新潟明訓 高等学校	新潟市内 TeNYテレビ 新潟	長岡市 まちなかキャン パス長岡	新潟市 新潟明訓 高等学校
	研究会 名 称	新潟・下越地 区、上越中越 地区初心者講 習会 (合同開催)	春期視聴 覚講習会	新潟県高 校放送コンテ スト主催事業	夏期講習会	QK杯校内放 送コンクール 共催事業	視聴覚研究会 ・総会	放送技術者冬 期講習会	放送技術者春 期講習会 研修会
	研究会 テーマ 「講演 テーマ」	基礎的な 放送・視 聴覚技術 に関する 指導方法 の習得	記録写真 撮影の基 礎	コンテスト の評価 方法	校内放送 コンクール に向けた 読み番組 の実践的 指導方法	コンテスト の評価 方法	番組制作 報道技術 に関する 現場見学	北信越大会 に向けた 読み番組 の実践的 指導方法	NHK杯 に向けた 読み番組 の実践的 指導方法
	講師職 氏 名	高文連専門部 役員	元教員	NHK専門職 ディレクター アナウンサー	高文連専門 部役員	NHK専門職 ディレクター アナウンサー	民間放送局 ディレクター アナウンサー	高文連専門 部役員	高文連専 門部役員
	研究発表 テーマ・職・ 氏名								
	参加者数	15人	7人	19人	9人	17人	8人	10人	8人
研修分野の分類 <small>下記①～⑦から選択、複数選択可。主となるテーマを先頭に</small>	②指導法 ⑦実習・講習	②指導法 ⑦実習・講習	①専門分野	②指導法 ⑦実習・講習	①専門分野	②指導法 ⑤見学会 ⑦講習	②指導法 ⑦実習・講習	②指導法 ⑦実習・講習	
研究調査	主 要 テーマ	第47回校内放送指導者講座							
	調査の 期 日 場 所・ 参加者数	12月26日～27日 東京都千代田放送会館 現地1人、オンライン8人							
図書購	図書名 冊 数								
刊 行 物 出 版	名 称	「視聴覚教育研究第62号」							
	主 内 容	実践研究報告 令和6年度のコンテスト結果と事業報告 視聴覚部会規約・高等学校教育研究会規約							
	冊 数	40冊							

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研定通部会 令和6年度事業報告書

部長 早川 勝志

研究会・講習会等の開催	目的	未来に向かって生徒の可能性を拓く定時制・通信制教育の推進	
	期日	令和6年7月29日(月)	令和6年11月20日(水)
	場所	ホテルイタリア軒	県立高田南城高等学校
	研究会名称	令和6年度新潟県高等学校定時制・通信制教育総合研究会並びに新潟県高等学校通信制教育研究会	令和6年度新潟県高等学校定時制・通信制教育研究協議会各校情報交換会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未来に向かって生徒の可能性を拓く定時制・通信制教育の推進 ～情熱と使命感あふれる教育活動の創造～ 「高等学校と児童相談所の連携について」	定時制・通信制における教務、生徒指導、進路指導、特別支援教育に関する情報交換
	講師職氏名	新発田児童相談所長 講師 森本 成彦 様	
	研究発表 テーマ・職・氏名	県外視察報告 県立荒川高等学校 渡邊 恵理 教諭 進路指導 県立長岡明德高等学校 中野 理恵 教諭 特別支援教育 県立十日町高等学校 豊岡 裕一 教頭	①定時制教務 ②通信制教務 ③生徒指導 ④進路指導
	参加者数	88名	47名
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に	② ③	① ⑥	
研究調査	主要テーマ	県外の先進校視察（教育課程、進路指導、特別支援教育等について調査）	
	調査の期日 場所・参加者数	令和6年7月18日(木)～19日(金)、参加者4名 千葉県立佐倉南高等学校、千葉県立東金高等学校、茨城県立荖崎高等学校	
図書購入	図書名 冊数		
刊行物出版	名称	実践集録61号	
	主な内容	定時制・通信制教育総合研究会、県外視察、情報交換会の報告	
	冊数	デジタルデータにて会員に配付	

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研定通部会 令和7年度事業計画（案）

部長 早川 勝志

研究会・講習会等の開催	目的	未来に向かって生徒の可能性を拓く定時制・通信制教育の推進	
	期日	令和7年7月29日（火）	令和7年11月19日（水）
	場所	内野まちづくりセンター	県立荒川高等学校
	研究会名称	令和7年度新潟県高等学校定時制・通信制教育総合研究会並びに新潟県高等学校通信制教育研究会	令和7年度新潟県高等学校定時制・通信制教育研究協議会各校情報交換会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未来に向かって生徒の可能性を拓く定時制・通信制教育の推進 ～情熱と使命感あふれる教育活動の創造～ 「（未定）」	定時制・通信制における教務、生徒指導、進路指導、特別支援教育に関する情報交換
	講師職氏名	未定	
	研究発表 テーマ・職・氏名	県外視察報告 県立長岡明德高等学校 教諭 テーマ未定 県立新潟翠江高等学校 教諭 テーマ未定 県立高田南城高等学校 教諭	未定
	参加者数	約100人	約50人
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	②③	①⑥	
研究調査	主要テーマ	県外の先進校視察（教育課程、進路指導、特別支援教育等について調査）	
	調査の期日 場所・参加者数	期日未定、参加者4名 視察先未定	
図書購入	図書冊数		
刊行研究成果出版	名称	実践集録62号	
	主内容	上記定時制・通信制教育総合研究会報告	
	冊数	デジタルデータにて発行	

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

令和6年度新潟県高等学校教育研究会理事会（書面審議）録

<理事会書面審議>

5月15日（水）

- ・「令和6年度 高教研理事会」書面審議資料をメールにて送付

5月29日（水）

- ・令和6年度新潟県高等学校教育研究会に係る審議事項の結果について下記により（報告）

記

県高等学校教育研究会 役員様	高教研第7号 令和6年5月29日
	県高等学校教育研究会会長 県立新潟南高等学校長 横堀真弓
令和6年度新潟県高等学校教育研究会に係る 審議結果報告および運営に係る連絡	
日頃より、当会の運営に御協力いただき感謝申し上げます。 さて、標記について御報告するとともに、本年度の運営に関し連絡申し上げます。	
1 令和6年度新潟県高等学校教育研究会に係る審議事項について 理事会において御審議いただきありがとうございました。令和6年度の審議事項につきましては、次のようになりましたので御報告いたします。	
<審議結果>	
1. 令和5年度事業報告 2. 令和5年度決算報告 3. 令和6年度役員（案） 4. 令和6年度委員および会員数 5. 令和6年度事業計画（案） 6. 令和6年度予算（案）	承認 承認 承認 承認 承認 承認

令和6年度の活動から

1 研究会等

ポストコロナの時代に入り、感染症対策と教員の働き方改革から、対面とオンラインのハイブリッドで実施するなど、各部会の特色や現状に応じて研究会（講習会・見学会・発表等）が実施されました。詳細については一覧を御覧ください。

2 研究助成等に関して

近年は会員数の減少傾向が続いております。それに伴う会費収入の減少のため、予算は厳しい状況が続いております。このような状況の中で一般財団法人新潟県教職員厚生財団様及び公益財団法人日本教育公務員弘済会新潟支部様からは、多額の助成をいただいております。紙面を借りて改めて感謝申し上げます。

3 会の運営について

(1) 高教研ホームページについて

平成26年8月に開設した高教研ホームページですが、各部会から積極的に御活用いただけるよう取り組んでおります。各部会の事業の内容や研究成果及び刊行物等を掲載し、部会の研究成果を広く発信するなど、ホームページの活用をお願いいたします。また事務局におきましても、郵送コスト圧縮のために、メールとホームページを積極的に活用して経費を節減しております。各種様式をホームページからダウンロードすることで、各部会等との連携強化と運営の効率化を図っています。今後も有効に活用くださるようお願いいたします。

新潟県高等学校教育研究会ホームページ	http://www.kokyoken.nein.ed.jp/
--------------------	---

(2) 会員募集方法について

加入申込については、電子メールによる申込とし、また、入会費の納入に係る「振込依頼書」は郵送にてお届けしました。次年度に向け、申込み方法や期限などを明確にお伝えできるよう改善していきたいと考えております。

年度始めの御多用の中、各校において当会への加入に係るお声かけや加入申込み業務を行っていただき感謝申し上げます。

(3) 会計取扱要領について

会計の適正な執行及び透明性確保の観点から、平成29年度に「部会会計取扱要領」を定め施行しています。これに則り、適切な運用に御協力いただき感謝申し上げます。

今後、各部会のよりよい運営といった観点で、「部会会計取扱要領」等について見直し改善を進めていきたいと考えています。

4 高教研の活性化について

令和6年度からPlantを活用した「研修履歴の記録の作成」と、当該履歴を活用した資質向上に関する校長等による「対話に基づく受講奨励」が始まりました。現時点で、高教研としてPlantへ研修の登録はできませんが、今後も教員研修において、高教研果たす役割は大きいと思います。

各部会におかれましては、時代に即した研究や協議を深めていただくとともに、その成果・情報を年報や高教研ホームページ等も活用しながら広く発信いただき、多くの先生方への加入に繋げていただければと思います。

（文責・幹事：新潟南高等学校 教頭 佐藤 俊）

令和6年度 収支決算書

収入の部

区 分	当初予算額(a)	最終予算額	決算額(b)	比較増減(b-a)	摘 要
会 費	2,770,000		2,796,000	26,000	年額一人¥2,000×1,385人（追加会員¥2,000×13人）
助 成 金	650,000		865,000	215,000	厚生財団(40万円)・教育公務員弘済会(25万円) (当初)外部団体から部会へ補助（数学1万円・家庭5.5万円・視聴覚4万円・定通11万円）
雑 収 入	0		18,483	18,483	英語部会スピーチコンテスト返金(17500円)、本部利息(731円)、理科(¥235)、 芸術(2円)、水産(1円)、保健体育(7円)、生徒指導(2円)、定通(5円)
前期繰越金	146,219		146,219	0	事務局関係費・予備費繰越
繰越金 (積立含む)	6,288,836		6,288,836	0	
合 計	9,855,055		10,114,538	259,483	

支出の部

I 部会別

区 分	当初予算額 (横立金を含む)	最終予算額(a) (横立金を含む)	決算額(b)	次年度積立金 (a-b)	摘 要					備 考
					研究大会	研究調査	研究図書	研究成果刊行	その他	
1. 国 語	464,641	464,641	230,429	234,212	82,083	8,646	0	139,700	0	
2. 地歴公民	275,667	275,667	196,629	79,038	102,249	0	0	94,380	0	
3. 数 学	937,116	947,116	213,040	734,076	141,040	0	0	72,000	0	(当初)外部団体補助 金(¥10,000)
4. 理 科	723,536	723,771	343,095	380,676	132,945	60,550	0	149,600	0	利息(¥235)
5. 芸 術	435,067	435,069	215,663	219,406	213,537	0	0	0	2,126	利息(¥2)
6. 英 語	1,773,918	1,791,418	777,351	1,014,067	626,433	9,893	0	0	141,025	スピーチコンテスト参加料 (¥17,500)
7. 農 業	408,776	408,776	216,417	192,359	116,867	0	0	99,550	0	
8. 工 業	584,694	584,694	250,467	334,227	124,947	5,520	0	0	120,000	
9. 商 業	168,000	168,000	168,000	0	70,740	0	7,260	90,000	0	
10. 水 産	494,714	494,715	326,955	167,760	0	310,785	16,170	0	0	利息(¥1)
11. 家庭科	477,000	532,000	275,000	257,000	140,000	0	0	135,000	0	外部団体補助金 (¥55,000)
12. 保健体育	835,972	835,979	127,869	708,110	127,869	0	0	0	0	利息(¥7)
13. 情 報	450,590	450,590	19,003	431,587	19,003	0	0	0	0	
14. 生徒指導	590,882	590,884	257,958	332,926	108,798	0	0	149,160	0	利息(¥2)
15. 図 書 館	413,795	413,795	281,601	132,194	163,679	0	17,160	98,010	2,752	
16. 視 聴 覚	222,187	262,187	168,720	93,467	44,619	65,501	14,600	44,000	0	(当初)NHK助成金 (¥40,000)
17. 定 通	356,281	466,286	247,720	218,566	168,110	79,610	0	0	0	外部団体補助金 (¥110,000)、利息(5円)
本部関係	142,219	142,219	91,450	50,769	0	0	0	0	91,450	
予備費	100,000	126,731	0	126,731	0	0	0	0	0	(最終)本部利息(¥731) 追加会費(¥26,000)
合 計	9,855,055	10,114,538	4,407,367	5,707,171	2,382,919	540,505	55,190	1,071,400	357,353	

II 費目別

区分	当初予算額	最終予算額(a)	決算額(b)	次年度積立金(a-b)	摘要
1. 研究大会費	3,662,466	3,662,466	2,382,919	1,279,547	
謝金	862,211	862,211	650,775	211,436	
旅費	623,910	623,910	185,522	438,388	
使用料及び貸借料	983,550	983,550	976,126	7,424	会場使用料・設備使用料等
資料費	305,587	305,587	58,114	247,473	
通信運搬費	642,208	642,208	411,794	230,414	送料, 手数料等
賃金	109,000	109,000	25,520	83,480	
会議費	136,000	136,000	75,068	60,932	茶, 茶菓子等
2. 研究調査費	747,850	747,850	540,505	207,345	
資料費	391,000	391,000	355,375	35,625	
通信運搬費	258,000	258,000	140,464	117,536	
会議費	98,850	98,850	44,666	54,184	
3. 研究図書購入費	164,600	164,600	55,190	109,410	
4. 研究成果刊行費	1,631,000	1,631,000	1,071,400	559,600	
5. その他	3,406,920	3,640,219	265,903	3,374,316	
6. 本部関係費	142,219	142,219	91,450	50,769	
事務費	76,719	76,719	30,950	45,769	送料, 手数料
会議費	5,000	5,000	0	5,000	
刊行費	60,500	60,500	60,500	0	R6年度製本代
7. 予備費	100,000	126,184	0	126,184	※当初予算額からの変動分を調整(最終)本部利息(¥731) 追加会費(¥26,000)
合計	9,855,055	10,114,538	4,407,367	5,707,171	

収入決算額 10,114,538

支出決算額 4,407,367

次年度繰り越し 5,707,171 (各部会次年度積立金含む)

令和6年度 高等学校教育研究会役員

会 長	横堀 真弓		新潟南						
副 会 長	小竹 聖一 新潟中央		石黒 浩司 新発田						
	長谷川 雅一 長 岡		橋本 敏郎 高 田						
	川上 豪 佐 渡								
顧 問	市野 正廣		新 潟						
部 会									
No.	部 会 名	部 長	副 部 長				部会幹事		
1	国語	坂元 淳子 白根	北岸 信治 柏崎	萱森 茂樹 村上	川上 豪 佐渡	千葉 知樹 荒川	小林 靖明 羽茂	横山 泰充 白根	
2	地歴公民	早川 勝志 新潟翠江	川合 克彦 新津南	山田 喜昭 吉田	植木 勲 直江津中等	馬場 隆史 新潟西	児玉 悟 糸魚川	中村 崇志 長岡大手	
3	数学	小林 英明 新津	伊皆 嘉樹 豊栄	南方 伸之 小出	関口 和之 津南中等	奥田 優 新井	夏見 康彦 糸魚川白嶺	渡辺 晶子 新津	
4	理科	伊藤 大助 長岡向陵	岩崎 啓 新潟向陽	遠藤 浩 国際情報	中田 匠 海洋	原口 央 燕中等		山口 武 長岡向陵	
5	芸術	小堺 さとみ 三条東	永井 昭光 新潟西	小野 由紀子 吉田	長津 綾子 直江津中等			(音)天野 咲子 加茂 (美)中條由美 上越総合技術 (書)松本直美 新潟	
6	英語	石積 希 高田商業	白藤 恵一 小千谷西	名川 由里子 有恒	池田 匡 柏崎工業	鈴木 綾乃 新津	吉田 桃子 三条商業	本間 康一 佐渡	長谷川 誠 高田
7	農業	村山 英司 加茂農林	阿部 慎 新発田農業	村山 和彦 長岡農業	木村 和史 高田農業			渡辺 秀明 加茂農林	
8	工業	諸橋 孝二 長岡工業	早川 智 新津工業	松原 直樹 新潟県央工業	増田 てつ志 上越総合技術			中村 智幸 長岡工業	
9	商業	小畑 智嗣 新潟商業	小林 皇司 長岡商業	石積 希 高田商業	大島 博文 新発田商業			徳永 美智子 柏崎総合	
10	水産	中田 匠 海洋	高橋 康一 海洋					山口 活水 海洋	
11	家庭	江川 真 長岡大手	小林 麻利子 巻総合	丸山 綾子 見附	長浜 力也 八海			田中 郁子 長岡大手	
12	保健体育	杵鞭 義孝 村上桜ヶ丘	傳田 秀輝 村松	志田 哲也 長岡明德	水野 宏志 村上中等	樋口 猛 新潟北	古田 裕子 塩沢商工	関澤 徹 荒川	
13	情報	原口 央 燕中等	吉川 保 巻	小林 皇司 長岡商業	佐藤 一正 三条	竹内 努 小千谷西		佐田 裕之 長岡向陵	
14	生徒指導	吉川 保 巻	傳田 秀輝 村松	千葉 知樹 荒川	徳永 和教 三条商業	井上 幸一郎 久比岐		吉田 広之 巻	
15	図書館	川上 史人 塩沢商工	夏見 康彦 糸魚川白嶺	大島 博文 新発田商業	川上 豪 佐渡			戸田 美由起 塩沢商工	
16	視聴覚	須藤 浩 六日町	夏見 康彦 糸魚川白嶺					野村 信夫 巻総合	
17	定通	早川 勝志 新潟翠江	千葉 知樹 荒川	志田 哲也 長岡明德	小日向 史 高田南城	川上 豪 佐渡	藤本 洋則 開志学園	本保 正佳 新潟翠江(定)	
会計監査委員	梅田 均 新潟商業	見田 雅史 市立明鏡	永井 大円 新潟東					(敬称略)	
事務局 (新潟南)	佐藤 俊								

部会幹事および部会員数

No.	部会名	部会幹事		会員数	No.	部会名	部会幹事		会員数
1	国語	横山 泰充	白根	140	8	工業	中村 智幸	長岡工業	113
2	地歴公民	中村 崇志	長岡大手	125	9	商業	徳永 美智子	柏崎総合	67
3	数学	渡辺 晶子	新津	192	10	水産	山口 活水	海洋	85
4	理科	山口 武	長岡向陵	165	11	家庭	田中 郁子	長岡大手	100
5	芸術	(音)天野咲子	加茂	49	12	保健体育	関澤 徹	荒川	67
		(美)中條 由美	上越総合技術		13	情報	佐田 裕之	長岡向陵	67
		(書)松本直美	新潟		14	生徒指導	吉田 広之	巻	186
6	英語	長谷川 誠	高田	203	15	図書館	戸田 美由起	塩沢商工	48
7	農業	渡辺 秀明	加茂農林	133	16	視聴覚	野村 信夫	巻総合	20
					17	定通	本保 正佳	新潟翠江(定)	139

会計監査委員

新潟商業	市立明鏡	新潟東
梅田 均	見田 雅史	永井 大円

事務局幹事

新潟南	
佐藤 俊	

委員及び会員数

地区	学番	学校名	委員氏名	人数	地区	学番	学校名	委員氏名	人数	地区	学番	学校名	委員氏名	人数
新	1	新潟	羽二生 大輔	44	長岡	32	長岡	杉山 礼	17	柏崎	61	柏崎	阿部 英敬	17
	2	新潟中央	貝田 智子	32		33	長岡大手	内川 未奈希	26		62	柏崎常盤	太田 修	7
	3	新潟南	佐藤 俊	14		34	長岡向陵	松井 武文	9		63	柏崎総合	徳永 美智子	10
	4	新潟江南	沢田 貴博	7		35	長岡明德	渡辺 新太郎	11		64	柏崎工業	富田 紀男	8
	5	新潟西	永井 昭光	14		36	長岡農業	山崎 勇	28		65	出雲崎	小田島 朝美	4
	6	新潟東	永井 大円	13		37	長岡工業	林 芳隆	12		私14	新潟産大付属	高倉 聡	8
	7	新潟北	樋口 猛	6		38	長岡商業	神蔵 紀明	10		中等2	柏崎翔洋中等	柿崎 宏行	9
	8	新潟工業	丸山 祐作	29		39	正徳館	佐藤 直之	4		66	高田	鹿俣 譲	16
	9	新潟商業	荻野 美和子	19		40	栃尾	柳澤 裕一	12		66			
	10	新潟向陽	南雲 悠	13		41	見附	中村 公紀	7		67	高田北城	松縄 恒彦	14
	11	新潟翠江(定)	本保 正佳	8		特3	長岡壘	三村 陽子	2		68	高田南城(定)	金山 朋宏	4
	11	新潟翠江(通)	近藤 崇	9		私9	帝京長岡	小熊 牧久	10		68	高田南城(通)	岩谷 和彦	3
	12	巻	滝澤 祐樹	23		私10	中越	竹内 拓	14		69	高田農業	緒形 忠大	25
13	巻総合	波多野 隆	20	私19	長岡英智	今井 基也	22	70	上越総合技術	安澤 和晃	25			
14	豊栄	渡邊 幸晴	5	三	42	三条	佐藤 一正	21	71	高田商業	青山 淳	6		
15	新津	鈴木 綾乃	14		43	三条東	早川 昌	8	72	久比岐	渡邊 修二	3		
16	新津工業	小池 茂樹	12		44	新潟県央工業	矢代 譲	13	73	有恒	安井 真	4		
17	新津南	富樫 亮	5		45	三条商業	吉田 桃子	4	越	74	新井	山中 政一	8	
18	白根	横山 泰充	4		46	吉田	小野 由紀子	5	75	糸魚川	児玉 悟	6		
市1	万代	上村 正子	27		47	分水	田辺 将吾	3	76	糸魚川白嶺	猪又 慶太	5		
市2	明鏡	見田 雅史	2		48	加茂	鈴木 和也	5	77	海洋	高橋 康一	19		
市中等1	高志中等	竹内 滋之	9		49	加茂農林	柴宮 秀生	33	中等5	直江津中等	長津 綾子	8		
特1	新潟県立新潟よつば学園	榎本 信幸	2		中等3	燕中等	加藤 朋之	11	私15	上越	木下 幸彦	8		
特15	東新潟特別支援	細川 顕司	1		私11	加茂暁星	坂田 洋史	7	私16	関根学園	西嶋 俊文	10		
私1	新潟明訓	内野 信昭	67		特20	吉田特別支援		0	78	佐渡	本間 康一	11		
私2	北越	船木 和久	31		魚	50	小千谷	浦部 頼之	8	佐	78	相川分校	信田 英樹	2
私3	新潟青陵	小熊 幸司	10			51	小千谷西	竹内 努	8	79	羽茂	祝 政弘	7	
私5	敬和学園	浅妻 和章	1	52		堀之内	藤岡 英之	13	80	佐渡総合	徳永 伸英	20		
私6	新潟第一	宮田 佳則	15	53		小出	行方 美幸	6	中等6	佐渡中等	加藤 一巳	8		
私7	東京学館新潟	曾我 秀哉	56	54		国際情報	笠原 正博	9	行2	県立教育センター		20		
私8	日本文理	渡邊 弘一	12	55		六日町	内山 崇	5		行政(県庁内各課)		30		
私17	開志学園	小嶋 健慈	3	56		八海	矢坂 英也	6	行政	新潟市教育委員会		3		
五泉	19	五泉	櫻井 武史	8		沼	57	塩沢商工	古田 裕子	8				
	20	村松	荒井 美鈴	6		58	十日町	加納 直恵	10					
	21	阿賀黎明	南部 泰正	5		58	松之山分校	山本 寛	2					
	22	新発田	鈴木 信行	17		59	十日町総合	瀧澤 琢也	17		合計		1398	
	23	西新発田	入倉 哲志	6		60	松代	河内 一修	4					
	24	新発田南	澁谷 亮輔	25		中等4	津南中等	宮澤 雅樹	9					
	25	新発田農業	熊木 秀徳	19	特6	川西特別支援		0						
	26	新発田商業	佐藤 直人	5										
	27	村上	吉田 昌生	3										
	28	村上桜ヶ丘	加藤 伸泰	15										
	29	荒川	関澤 徹	5										
	30	中条	馬場 宏	4										
	31	阿賀野	三本 朗子	2										
特8	村上特別支援	田中 雅広	1											
私12	新発田中央	佐藤 秀夫	11											
私13	開志国際	和泉 哲三	4											
中等1	村上中等	水野 宏志	8											

新潟県高等学校教育研究会規約

第1章 総 則

第 1 条 この会は、新潟県高等学校教育研究会といい、事務局を会長在任校におく。

第 2 条 この会は、新潟県の高等学校教育を振興発展させることを目的とする。

第 3 条 この会は、前条の目的を達成するために、下記の事業を行う。

1. 高等学校教育に関する調査研究
2. 研究協議会・講習会・講演会・展覧会等の開催、研究誌・機関紙の発行
3. 会員の研究に対する援助
4. その他この会の目的達成に必要な事項

第2章 組 織

第 4 条 この会は、新潟県にある高等学校の教職員およびこれに準ずるもので組織し、次の部会をおく。

- | | | |
|-----------|--------------|------------|
| 1. 国語部会 | 2. 地理歴史・公民部会 | 3. 数学部会 |
| 4. 理科部会 | 5. 芸術部会 | 6. 英語部会 |
| 7. 農業部会 | 8. 工業部会 | 9. 商業部会 |
| 10. 水産部会 | 11. 家庭科部会 | 12. 保健体育部会 |
| 13. 情報部会 | 14. 生徒指導部会 | 15. 図書館部会 |
| 16. 視聴覚部会 | 17. 定通部会 | |

第3章 機 関

第 5 条 この会は、次の機関をおく。

1. 理事会
2. 委員会
3. 部長会
4. 部会委員会

第 6 条 理事会は、この会の決定機関であつて、次のことを決める。

1. 規約の決定並びに改正に関すること。
2. 事業計画に関すること。
3. 予算の決定、決算の承認に関すること。
4. 財産および基金の処分に関すること。

- 5. 役員に関する事。
 - 6. 他団体への加入脱退に関する事。
 - 7. この会の解散に関する事。
 - 8. その他必要な事項に関する事。
- 第 7 条 理事会は、理事で構成し、毎年開催する。臨時理事会は、会長が必要と認めるとき、会長が招集する。
- 第 8 条 理事には、会長・副会長・各部会の部長 1 名および理事会で必要と認められた若干名がある。
- 第 9 条 委員会は、この会の執行機関であって、次の任務権限を持つ。
- 1. 理事会から委任された事項の審議執行に関する事。
 - 2. 理事会に提出する議案に関する事。
 - 3. 緊急事項の処理に関する事。
- 第 10 条 委員会は、委員で構成し、毎年開催する。臨時委員会は、会長が必要と認めるとき、会長が招集する。
- 第 11 条 委員会の議長は、そのつど構成員の中から選出する。
- 第 12 条 部長会は、連絡機関であって、理事会と各部会および部会相互間の連絡にあたる。
- 第 13 条 委員会および部長会は、委任状を持参した代理人を認める。
- 第 14 条 理事会・委員会・部長会の会議は、構成員の 2 分の 1 以上の出席で成立する。
- 第 15 条 部会委員会は、部長・副部長・部会幹事および校内部会代表をもって構成する。
- 第 16 条 部会委員会は次の任務権限をもつ。
- 1. 専門的事項について調査研究する。
 - 2. 専門的事項について委員会に提案する。
 - 3. 専門的事項についての業務を執行する。
- 第 17 条 部会委員会は、必要に応じ、会長に連絡して、部長が招集する。
- 第 18 条 部会は、必要により、学科または科目別あるいは地区別に分会を設けることができる。
- 第 19 条 部会の細則は、各部会ごとに作成して会長に届け、委員会の承認を得るものとする。

第 4 章 役 員

- 第 20 条 この会には、次の役員をおく。
- | | | | |
|-----------|-------|------------|-------------|
| 1. 会長 | 1 名 | 2. 副会長 | 5 名 |
| 3. 部長 | 各 1 名 | 4. 副部長 | 若干名 |
| 5. 理事 | | 6. 委員 | 各校 1 名 |
| 7. 会計監査委員 | 3 名 | 8. 幹事 | 若干名 |
| 9. 部会幹事 | 各 1 名 | 10. 校内部会代表 | 各校内の部会各 1 名 |
| 11. 顧問 | | | |
- 第 21 条 役員の仕事権限は、次の通りである。

1. 会長は、この会を代表し、会務執行の責任を負う。
2. 副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときはその任を行う。
3. 部長は、その部会を代表し、部会の業務を統理する。
4. 副部長は、部長を補佐し、部長事故あるときはその任を行い、各地区別部会との連絡にあたる。
5. 理事は第6条によりその任を遂行する。
6. 委員は、各校内の意見を代表し、第9条によりその任を遂行する。
7. 会計監査委員は、会計を監査し、委員会に報告する。
8. 幹事は、この会の事務を処理する。
9. 部会幹事は、各部会の事務を処理する。
10. 校内部会代表は、各校内部会の事務を処理する。
11. 顧問は、会長の諮問に応ずる。

第22条 役員を選出法は、次の通りとする。

1. 会長・副会長・部長・副部長は、理事会で会員の中から推薦し、委員会で承認する。
2. その他の理事は、必要により理事会で推薦し、委員会で承認する。
3. 委員は、各学校から1名選挙する。
4. 会計監査委員は、委員会で互選する。
5. 幹事は、委員会の承認を経て会長が委嘱する。
6. 部会幹事は、各部会の推薦により、会長が委嘱する。
7. 校内部会代表は、各校内部会で互選する。
8. 顧問は、委員会の推薦を経て会長が委嘱する。

第23条 役員任期は、2年とし、次期改選まではその任を行い、重任してもよい。
欠員の補充で就任した者の任期は、前任者の残りの期間とする。

第5章 会 計

第24条 この会の経費は、会費・補助金・寄付金等による。ただし、寄付金および寄付物件の受理は、委員会の承認を要する。

会費は、毎年5月1日までに各学校ごとに委員がまとめ、部会別会員名簿をそえて事務局に送付するものとする。

第25条 この会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

第6章 雑 則

第 26 条 この会に入会しようとするときは、所属部会を明記し、各学校ごとにまとめて、会長に通告する。

第 27 条 この会の規約を実施するために必要な規定は、別に定める。

第 7 章 附 則

第 28 条 この規約は昭和 23 年 10 月 15 日から実施する。

2. 昭和 61 年 6 月 9 日改正施行する。
3. 平成 2 年 6 月 8 日改正施行する。
4. 平成 7 年 5 月 31 日改正施行する。
5. 平成 23 年 6 月 17 日改正施行する。
6. 平成 24 年 6 月 22 日改正施行する。
7. 令和 元年 5 月 27 日改正施行する。
8. 令和 3 年 11 月 1 日改正施行する。

事務局日誌抄

日付

令和6年	4月1日	令和6年度新潟県高等学校教育研究会役員交代・補充について（依頼）	メールにて送付
	4月1日	令和6年度高教研会員募集について	メールにて送付
	4月1日	部会会計の取扱要領について（お知らせ）	メールにて送付
	4月1日	令和6年度高教研会員募集に係る振込依頼書の発送	募集案内校へ郵送
	4月14日	新潟県高等学校教育研究会会計監査委員の派遣について（依頼）	メールにて送付
	4月17日	令和6年度の県高等学校教育研究会会計監査の実施	本校応接室にて開催
	5月9日	一般財団法人 新潟県教職員厚生財団へ「令和5年度団体助成完了報告書」の送付	郵送により報告
	5月15日	高教研年報63号送付	行政、理事宛に郵送
	5月10日	令和6年度高教研名簿の発送	メールにて送付
	5月29日	一般財団法人 新潟県教職員厚生財団より400,000円の助成	
	5月19日	令和6年度高教研理事会審議	書面開催文書（メールにて送付）
	6月1日	令和6年度高教研理事会審議結果（報告）	メールにて送付
	6月1日	令和6年度高教研委員会審議	書面開催文書（メールにて送付）
	6月8日	令和6年度高教研委員会審議結果（報告）	メールにて送付
	6月9日	令和6年度高教研部会幹事連絡会に係る資料の送付	幹事業務文書・書類（郵送）
	6月9日	新潟県高等学校教育研究会部会事務処理要項の一部変更について（お願い）	メールにて各部長に送付
	6月10日	新潟県高等学校教育研究会旅費の取扱いの変更について	県立教育センターに送付
	7月20日	公益財団法人 新潟県教育公務員弘済会より250,000円の助成	
	8月2日	新潟情報教育研究会 後援申請回答の送付	メールにて回答
	9月2日	一般財団法人 新潟県教職員厚生財団へ「令和6年度新潟県民のための教育・文化活動」団体助成を申請	郵送により申請
令和6年	1月6日	年度末に係る部会事務処理に関して（依頼）	メールにて送付
	2月14日	一般財団法人 新潟県教職員厚生財団より令和6年の「団体事業助成」承認の通知を受領	
	2月14日	公益財団法人 日本教育公務員弘済会新潟支部へ令和6年度「教育研究団体助成事業報告」の送付	郵送により報告
	2月下旬	『高教研年報』第64号の編集作業に着手	

（文責 県立新潟南高等学校 教頭 佐藤 俊）

編集後記

令和6年度の高教研の活動をまとめた「高教研年報第64号」をお届けいたします。

今年度は、新型コロナウイルス感染症以前のように、対面での研究・協議を実施していただいた部会が多くなりました。また、高教研の目的を遂行すべく、各部会の特色を踏まえ、対面とオンラインのハイブリッド開催を行うなど、多様な手法により研究・協議を実施していただきました。このことは各部の部長、副部長をはじめ関係の皆様のお御尽力があったからと、改めて感謝申し上げます。

さて、令和6年度は、新学習指導要領で学習した生徒による最初の大学入学試験が実施されました。大学入試共通テストでは、共通必修科目「情報Ⅰ」も初めて実施されました。大学入試だけでなく、予測困難な時代を生き抜く力を身に付けるために、高等学校においては、ICT機器のさらなる活用と、個別最適化した学び、生徒の多様な教育ニーズに対応した学びの提供が必要になっています。

本会の役割は、変化する教育課題に対応しながら、新たな指導内容や指導方法といった教育の専門分野について、会員相互の情報交換や研修をとおして研究するものです。したがって、この経験を踏まえての本会の研究活動や成果は、今後益々重要となるものと考えます。

この年報は全部会の活動を掲載しております。探究的な学習やICTの活用など、多様な取組が深まりを見せる中、自身の取組の参考としていただくとともに、この高教研各部会の取組を一人でも多くの方々にお伝えいただき、高教研会員の裾野をさらに広げていって欲しいと思います。なお、年報は新潟県高等学校教育研究会ホームページにも掲載いたしますので、どうぞ御活用ください。

末筆になりますが、今年度も一般財団法人新潟県教職員厚生財団様及び公益財団法人日本教育公務員弘済会新潟支部様から研究費として御支援をいただき、各部会の研究の充実に充てさせていただいております。紙面を借りて感謝申し上げます。

今年度の高教研の運営に御尽力くださった関係の皆様方に深く感謝申し上げますとともに、本県高等学校の更なる発展を祈念して編集後記といたします。

